

Accessの カスタマイズ

- 9.1 マクロを使う
- 9.2 リボンとナビゲーションウィンドウをカスタマイズする
- 9.3 オプションを設定する
- 9.4 データベーステンプレートを使う

いままでに説明した様々な機能は、はじめて使う人にとってわかりやすく、便利に作られています。しかし、Accessを使いこなしていくと、定型的な操作をまとめてもっと楽をしたいとか、細かい動作が気に入らないので変えたいと思うこともあります。

本章では、マクロとメニュー、オプション設定を通じて、Accessの動作をカスタマイズする方法を説明します。



マクロを使う



Keyword ● マクロ ● アクション ● ステップ実行 ● 条件付きマクロ

マクロとは、Accessで行う一連の操作を記録し、簡単な操作で実行することができるようにする機能です。日頃よく使う定型操作をマクロにすることで、いちいち同じ手順を繰り返すことなく、簡単に操作を実行することができるようになります。

ここでは、マクロの作成方法と、自分の思いどおりのマクロを作るための様々な構成方法について説明します。また、作成したマクロを実行する方法も説明します。

Point マクロを使う

ここでは、マクロを使う上で必要な次の操作について説明します。

● マクロを作成する

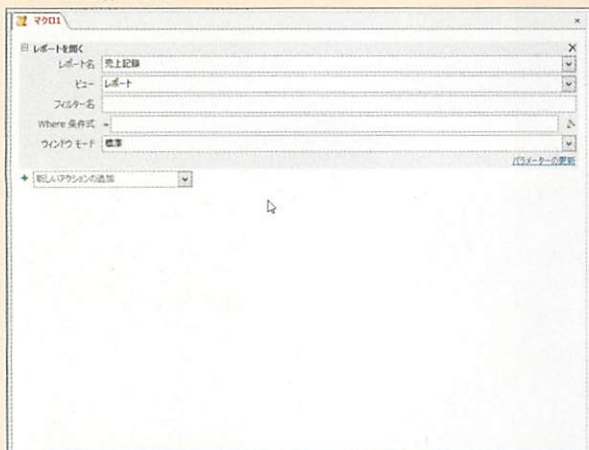
● 様々なマクロを構成する

● マクロを実行する

● データマクロを作成する

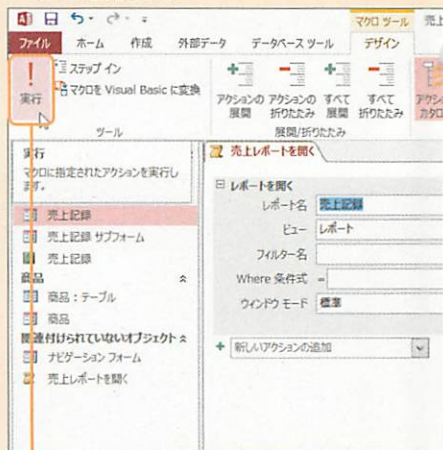
他のOfficeアプリケーションでは、実際に操作することによってマクロを記録しますが、Accessは、表形式のシートに命令を書き入れていくことによってマクロを表現します。こちらの方がプログラム言語的で、少々とっつきにくいですが、複雑な操作を記述することができます。

▼マクロを作成する



マクロを作成する

▼マクロを実行する



マクロ実行ボタン

9.1.1 マクロの基本

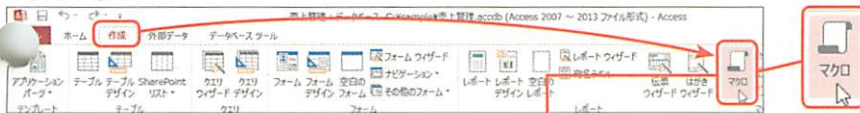
まずは、マクロの作成方法と、マクロのデザインビューの構成について説明します。そのあとで、実際にマクロを実行する方法を説明します。マクロとは何か、言葉で説明するよりも、実際に例と操作で見ていく方がわかりやすいでしょう。

Process マクロを作成するには

マクロを作成する方法は、テーブルやフォーム、レポートなどの作成方法とよく似ています。

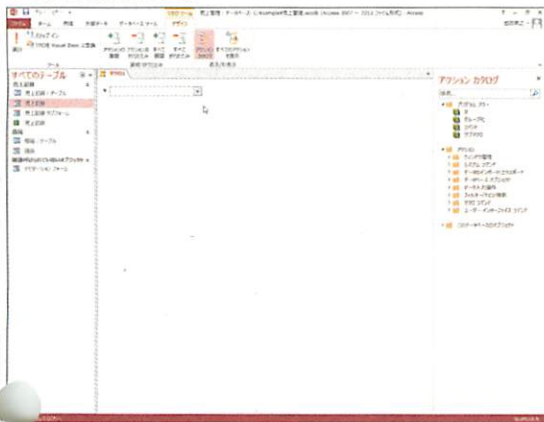
① 作成コマンドタブのマクロボタンをクリックする

▼[マクロ] ボタン



① [マクロ] ボタンをクリックする

▼マクロが作成される



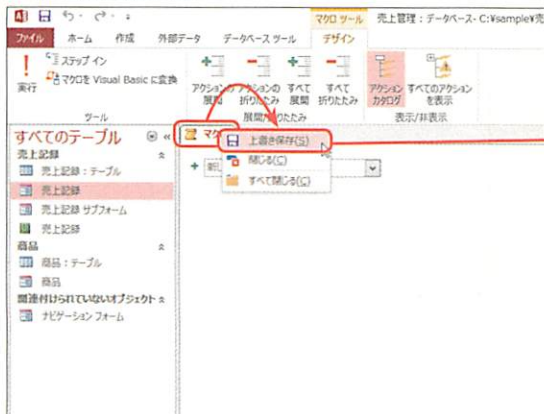
② マクロが作成され、デザインビューが開きます。

マクロが作成される

Attention

⚡ テーブルやフォームなどとは違い、マクロにはデザインビューしか存在しません。そのため、ビューの切り替えボタンはありません。

▼マクロが作成される



③ タブを右クリックして、表示されるメニューから上書き保存を選択します。

③ 右クリックして、[上書き保存] を選択する

9
Accessの
カスタマイズ

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

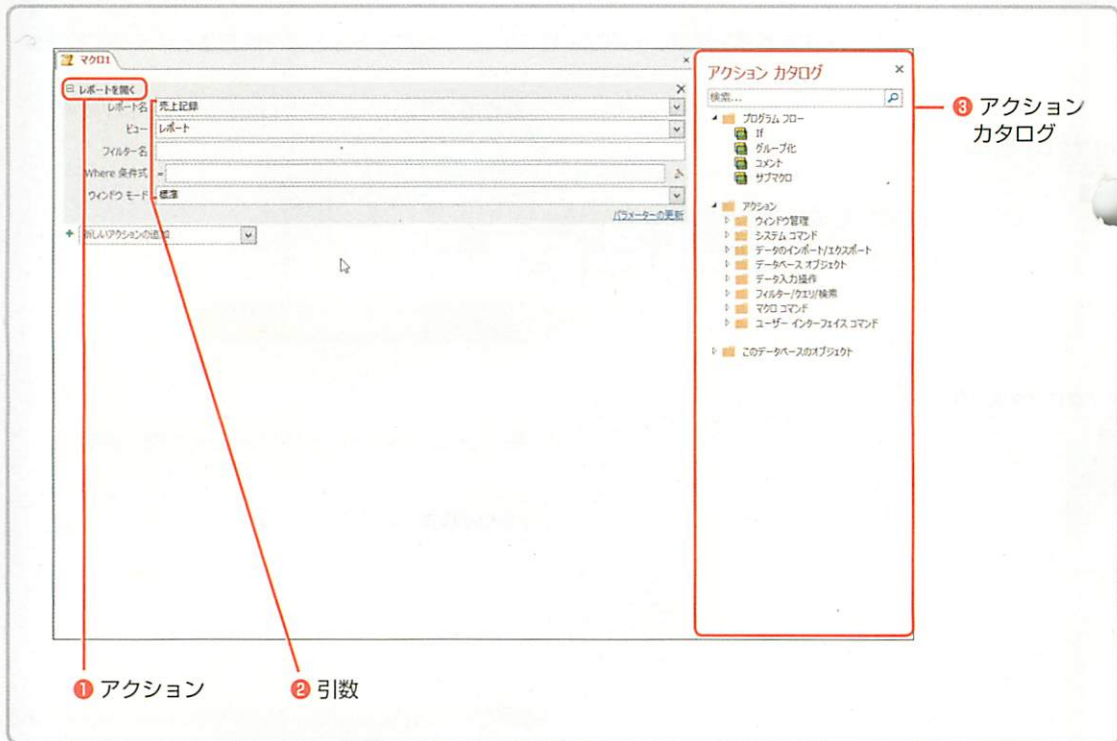
索引
Index

デザインビューの構成



マクロのデザインビューは、次のような構成になっています。表のそれぞれの行が、1つの操作を構成しています。これを**アクション**といいます。アクションを複数登録すると、マクロを実行したときに、そのアクションが順番に実行されます。この画面で、アクションや引数、コメントやプロパティに値を選択あるいは入力して、マクロを構成していきます。

▼マクロのデザインビュー



- ① **アクション**
実行するアクションの種類を設定します。
- ② **引数**
アクションの引数を設定します。
- ③ **アクションカタログ**
アクションのリストです。

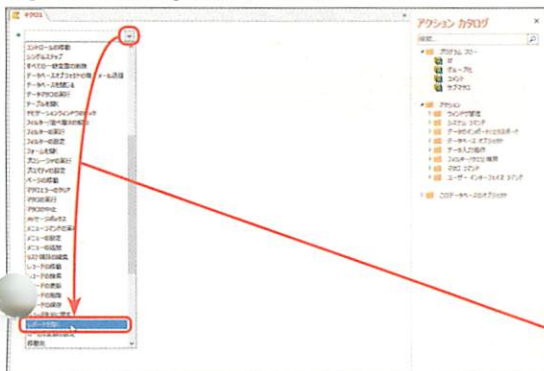
Process

単純なマクロを設計するには



まずは、単純なマクロを設計してみましょう。ここでは、売上記録レポートを開いて、メッセージを表示するマクロを作ってみます。

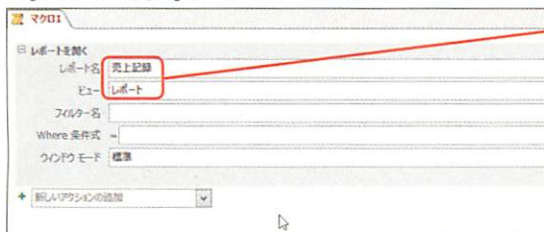
▼ [レポートを開く]アクションの登録



- ① レポートを開くというアクションを選択します。
- ② レポート名とビューを設定します。
- ③ メッセージボックスのアクションを選択します。メッセージ欄に表示するメッセージを入力します。
- ④ マクロが完成したら、ドキュメントタブを右クリックして表示されるショートカットメニューから上書き保存を選択します。
- ⑤ マクロの名前を入力して、マクロの保存が完了します。

① [レポートを開く] を選択する

▼ [レポートを開く]アクションのプロパティ



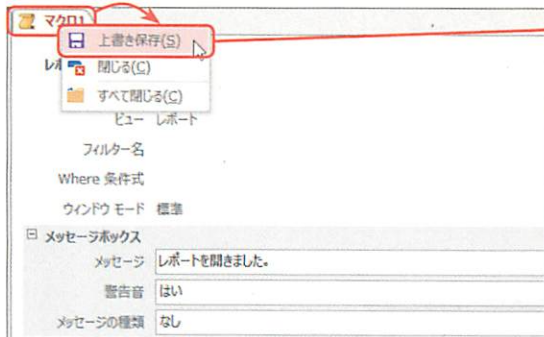
② レポート名とビューを選択する

▼ [メッセージボックス]アクションを登録する



③ [メッセージボックス] を選択し、メッセージを入力する

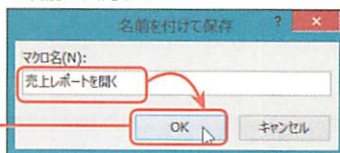
▼ マクロの保存



④ 右クリックメニューから [上書き保存] を選択する

⑤ マクロ名を入力して、[OK] ボタンをクリックする

▼ 名前を入力する



9
Accessの
カスタマイズ

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

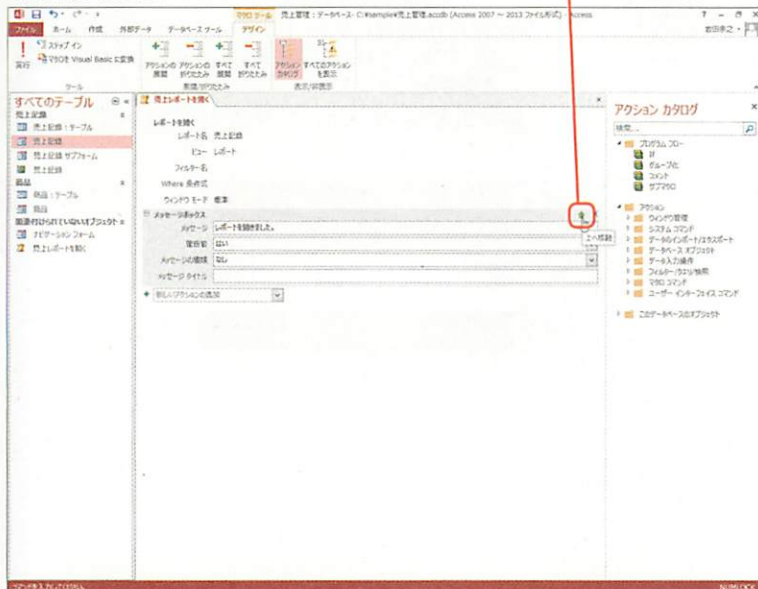
Process

アクションの順番を入れ替えるには

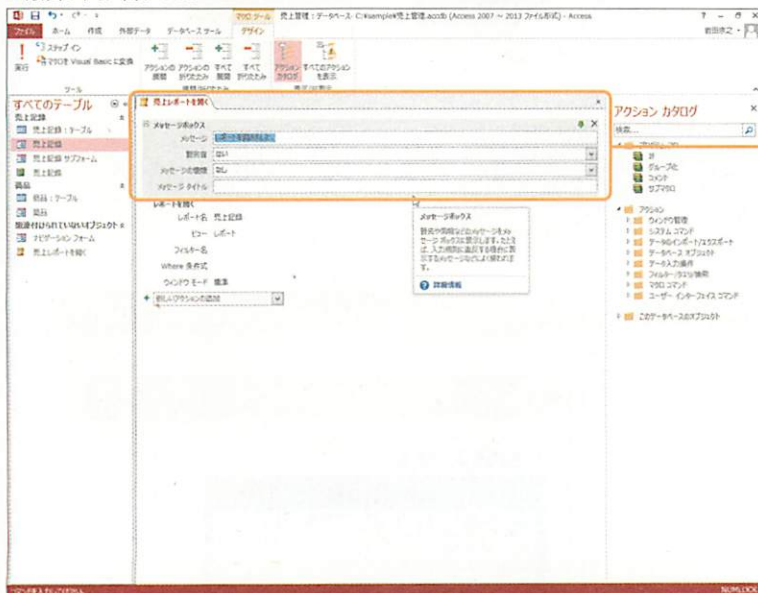
アクションの順番を入れ替えるには、アクション右上の矢印ボタンをクリックします。

- 1 矢印ボタンをクリックします。
- 2 アクションが上に移動しました。

▼順番の入れ替え



▼順番が入替わった



9
Accessの
カスタマイズ

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレートの
使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

Process

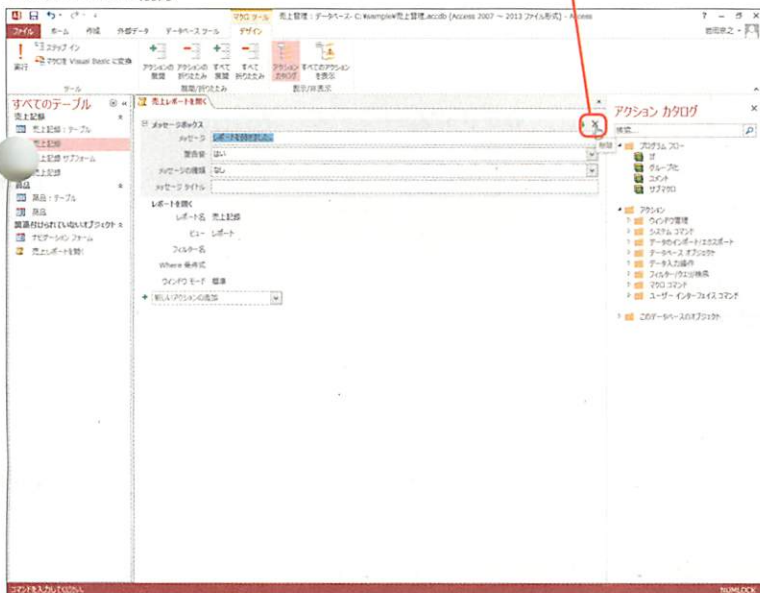
アクションを削除するには

アクションを削除するには、アクション右上の×ボタンをクリックします。

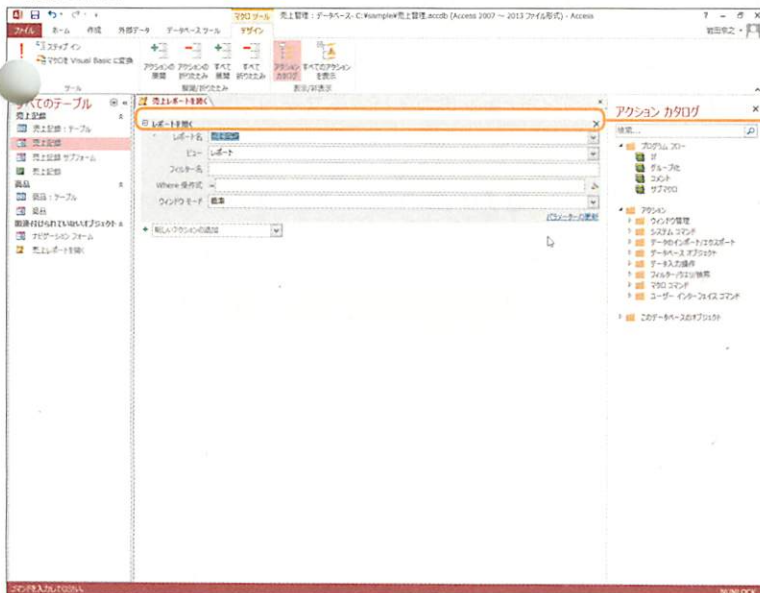
- ① ×ボタンをクリックします。
- ② アクションが削除されました。

① ×ボタンをクリックする

▼アクションの削除



▼削除された



9
Accessの
カスタマイズ

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

9.1.2 マクロを実行する



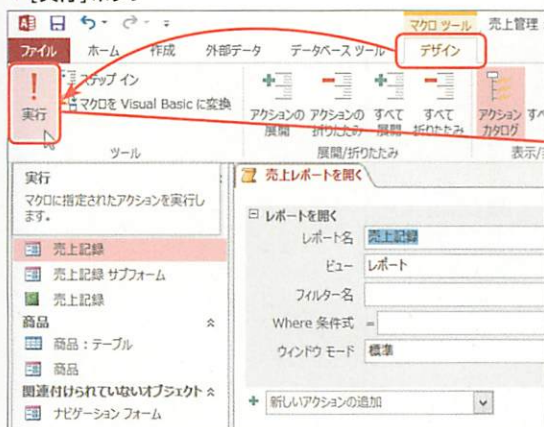
マクロの実行方法は、マクロを開いているときと開いていないときで異なります。ここでは、まず、マクロを設計している途中で、デザインビューから実行する方法を説明します。

マクロの設計が終わったあとは、マクロのデザインビューではなく、通常の画面から直接実行します。

Process マクロを実行するには

デザインビューからマクロを実行するには、次のようにします。

▼ [実行] ボタン



① デザインコマンドタブの**実行**ボタンをクリックします。

① **[実行]** ボタンをクリックする

Process マクロをステップ実行するには

操作を上から順に実行する単純なマクロではなく、あとに説明するような複雑なマクロを設計すると、マクロに関する問題を見付けにくくなります。ただ実行するだけでは、何か問題が起きたときに、どこがどう実行されたのかがよくわかりません。

そのような場合には、マクロを1アクションずつ実行する**ステップ実行**が有用です。



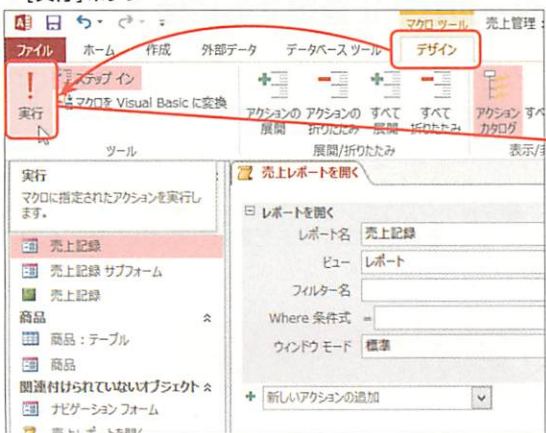
▼ [ステップイン] ボタン



① デザインコマンドタブの**ステップイン**ボタンをクリックします。

① **[ステップイン]** ボタンをクリックする

▼ [実行] ボタン



2 デザインコマンドタブの実行ボタンをクリックします。

2 [実行] ボタンをクリックする

Onepoint



ステップインボタンの色が変わって、ステップ状態になっていることを示します。

3 シングルステップダイアログが表示されます。ステップボタンをクリックすることにより、マクロが1行ずつ実行されます。

3 [ステップ] ボタンをクリックする

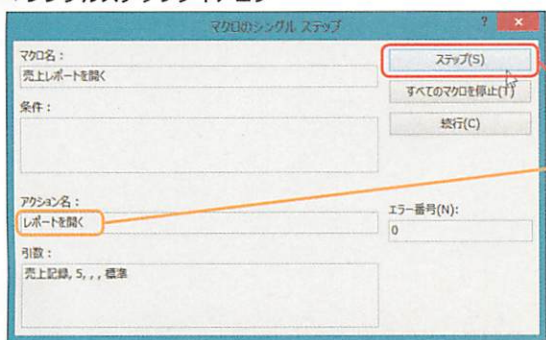
実行するアクションが表示される

Onepoint



すべてのマクロを停止ボタンをクリックすると、実行中のマクロを停止します。また、継続ボタンをクリックすると、以降の行を連続して実行します。

▼ シングルステップダイアログ



9 Accessのカスタマイズ

10 フォームやレポートの設計

11 アプリを作成する

12 テンプレートの使用

13 データベース作成の手順

資料 Appendix

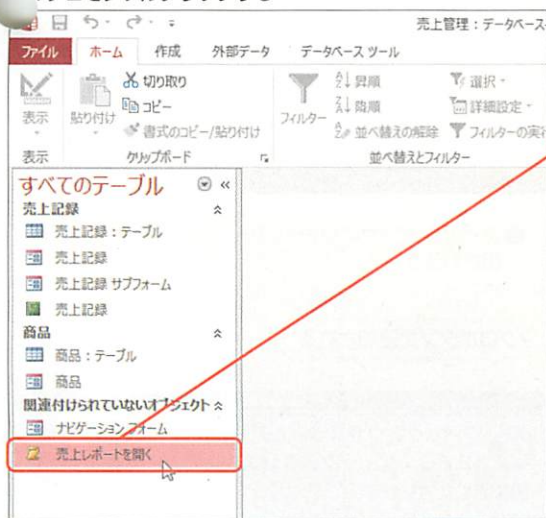
索引 Index

Process

マクロを開かずに実行するには

いったん設計を終えたマクロを実行するには、次のように操作します。

マクロをダブルクリックする



1 ナビゲーションウィンドウで、マクロをダブルクリックします。

1 マクロをダブルクリックする

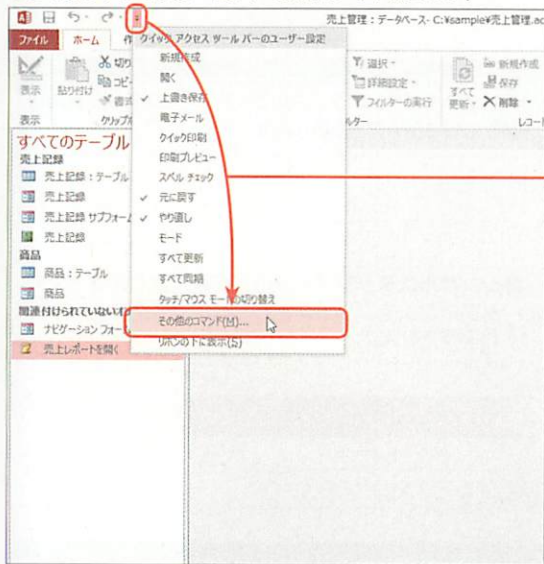
Process

マクロをクイックアクセスツールバーに登録するには



マクロを、画面上部にあるクイックアクセスツールバーに登録することができます。これによって、マクロを文字どおり1クリックで実行することができます。

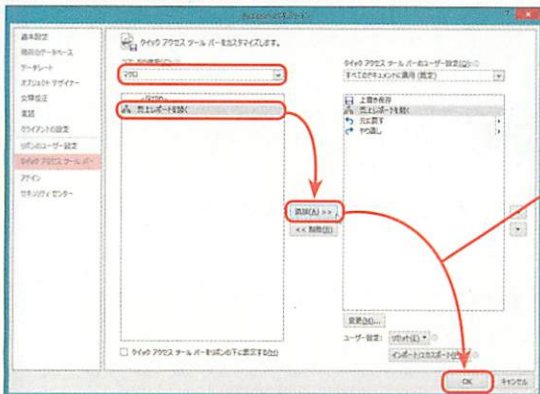
▼クイックアクセスツールバーのカスタマイズコマンド



① クイックアクセスツールバー右の▼ボタンをクリックし、その他のコマンドを選択して、カスタマイズ画面を出します。

① ▼ボタンをクリックし、[その他のコマンド]を選択する

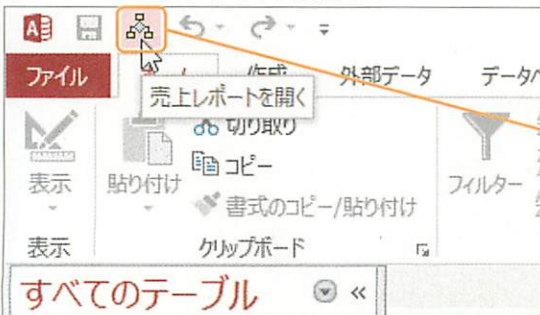
▼クイックアクセスツールバーのカスタマイズ画面



② コマンドの選択でマクロを選択し、登録したいマクロを追加ボタンで追加します。設定が終了したら、OKボタンをクリックします。

② [追加] ボタンでマクロを追加し、[OK] ボタンをクリックする

▼クイックアクセスツールバーに追加される



③ クイックアクセスツールバーにマクロのボタンが追加されます。

マクロボタンが追加される

Onepoint

クイックアクセスツールバーの操作方法については、「2.5.3 クイックアクセスツールバーを使う」を参照してください。

9.1.3 様々なマクロを設計する

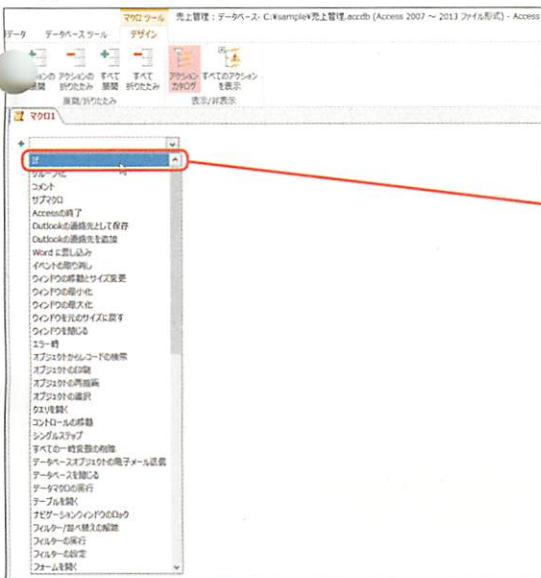
アクションの多くは、「フォームを開く」や「メッセージボックス」のように、ある動作を実行するものですが、そうではない特殊なアクションも存在します。ここでは、そういった特殊なアクションについて説明します。

Process 条件文を作成するには



条件文を使うと、条件によって異なった処理を行わせることができます。条件文は、If文とも呼ばれます。

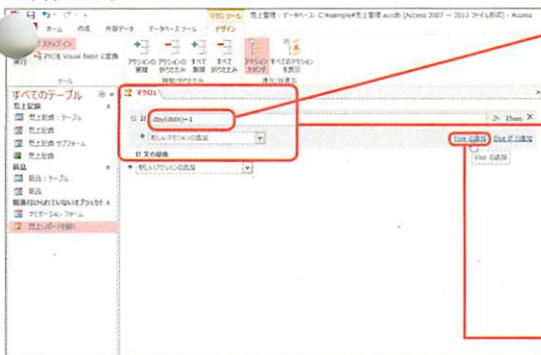
▼ If文



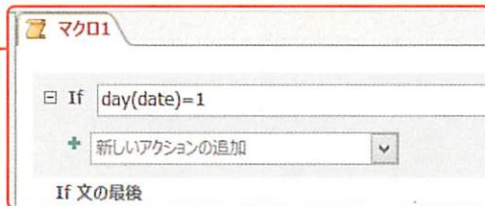
- ① Ifを選択します。
- ② 条件式を入力します。
- ③ 条件に当てはまらないときのアクションを追加します。

1 Ifを選択する

▼ 条件の入力



2 条件式を入力する



3 Else文を追加する

OnePoint



If文の中に、条件に当てはまるときのアクションを追加します。Else文の中には、条件に当てはまらないときのアクションを追加します。

OnePoint



Else Ifを使うと、If文を複数連続させることができます。Else If文の中には、最初のIf文の条件に当てはまらないが、Else If文の条件には当てはまるときのアクションを追加します。

9
Accessの
カスタマイズ

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

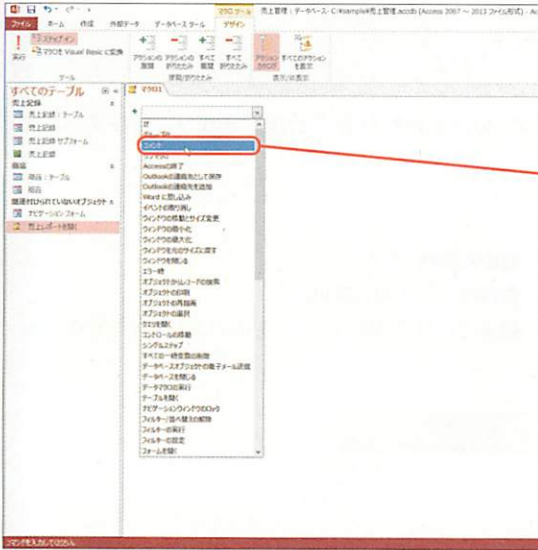
Process

コメントを作成するには



コメントは、マクロの中にメモや特記事項を残しておくためのものです。マクロの実行には影響しません。

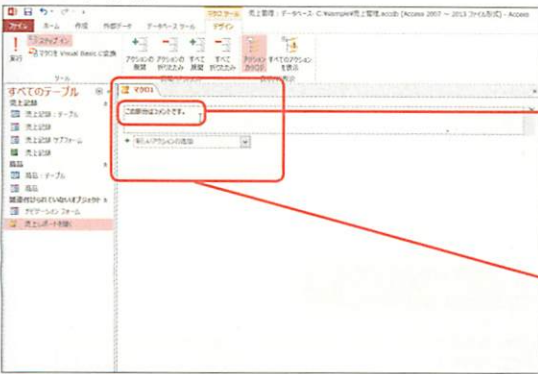
▼コメントの追加



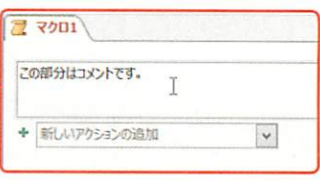
- ① コメントを選択します。
- ② コメントを入力します。
- ③ コメントは、緑色で表示されます。

1 [コメント]を選択する

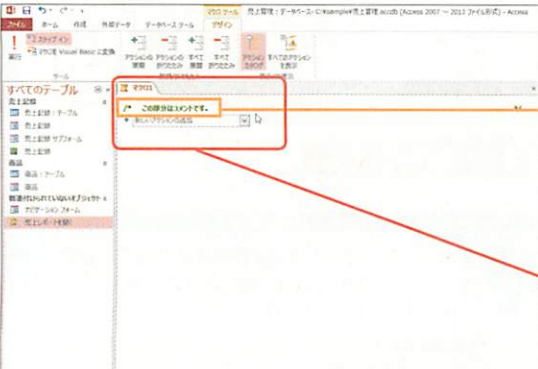
▼コメントの入力



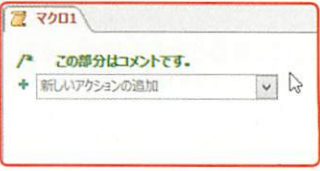
2 コメントを入力する



▼コメントの表示



コメントが表示される



9 Accessのカスタマイズ

10 フォームやレポートの設計

11 アプリを作成する

12 テンプレートの使用

13 データベース作成の手順

資料 Appendix

索引 Index

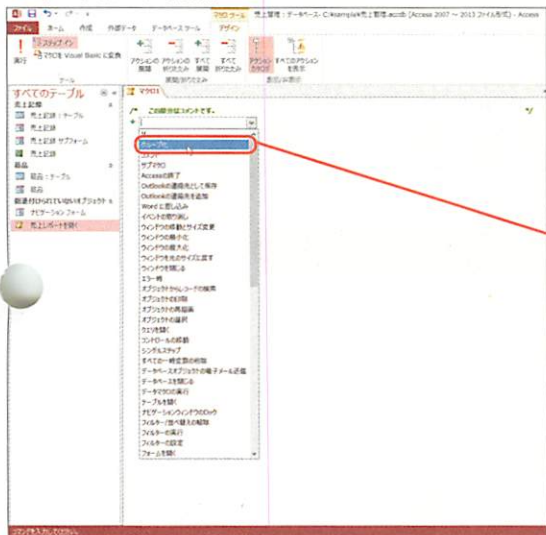
Process

マクログループを作成するには

マクログループは、一連のアクションをグループ化し、1つのアクションのように見せる機能です。複雑で長いマクロを作成するときに重宝します。

Onepoint

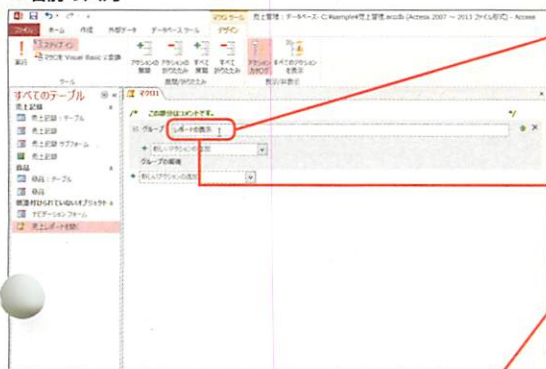
▼マクログループの追加



- ① グループ化を選択します。
- ② グループの名前を入力します。
- ③ グループの中身となるアクションを追加します。
- ④ グループの内容を折りたたんで、簡単な表示にします。

① [グループ化]を選択する

▼名前を入力



② 名前を入力する

レポートの表示

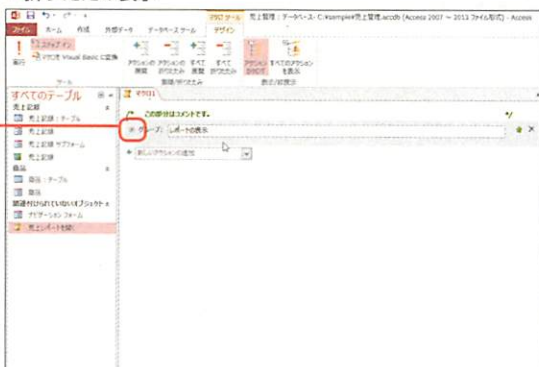
③ アクションを追加する

④ 左側の[-]ボックスをクリックする

▼内容の入力



▼折りたたみ表示

9
Accessの
カスタマイズ10
フォームや
レポートの設計11
アプリを
作成する12
テンプレート
の使用13
データベース
作成の手順資料
Appendix索引
Index

Process

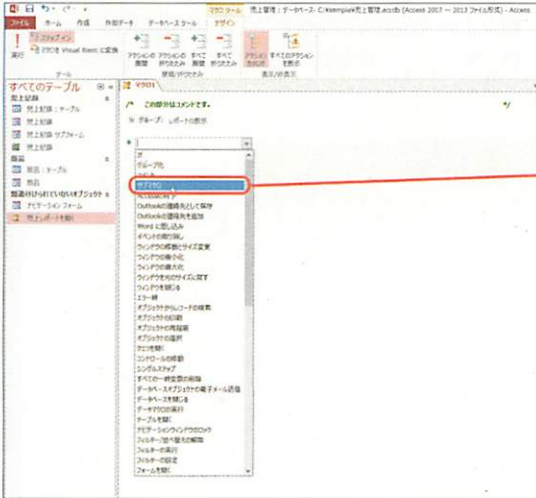
サブマクロを作成するには

サブマクロは、マクロの中でのみ使用できる別のマクロを定義します。作成したサブマクロは、マクロの実行アクションを使って呼び出すことができます。

処理を繰り返したり、同じような処理をいろいろな場所で実行したりするときに、サブマクロを定義して呼び出すようにします。



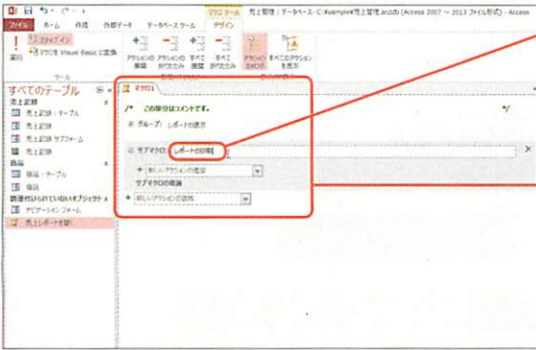
▼サブマクロの追加



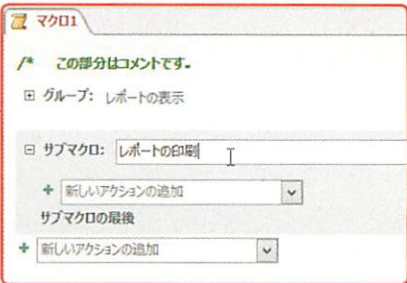
- 1 サブマクロを選択します。
- 2 サブマクロの名前を入力します。
- 3 グループの中身となるアクションを追加します。

1 [サブマクロ]を選択する

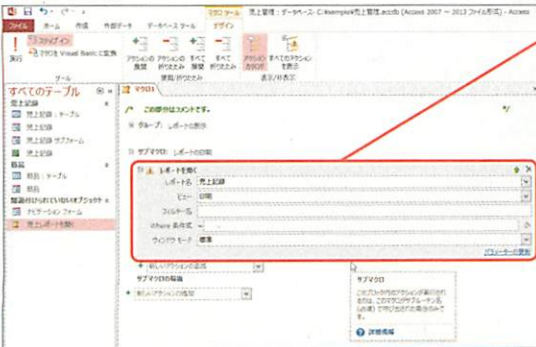
▼名前の入力



2 名前を入力する



▼内容の入力



3 アクションを追加する

9 Accessのカスタマイズ

10 フォームやレポートの設計

11 アプリを作成する

12 テンプレートの使用

13 データベース作成の手順

資料 Appendix

索引 Index

Process

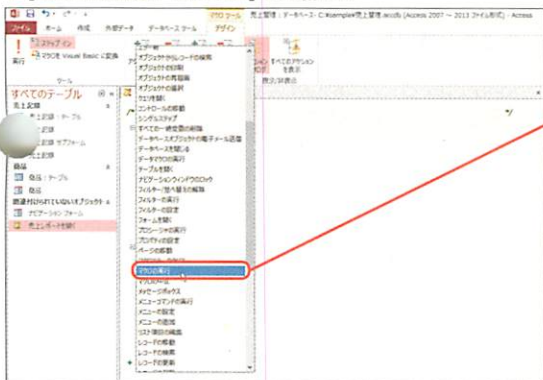
繰り返し処理を作成するには



マクロで繰り返し処理を実行するには、**マクロの実行アクション**を使います。このアクションでは、繰り返し回数や条件を指定することができます。このことを利用すると、マクロでも複雑な処理を実行させることができます。

まずは、繰り返したい処理に対して、前述の方法でマクロ名を割り当てます。そして、**マクロの実行アクション**で、回数を指定してそのマクロを実行します。例として、レポートを3回ずつ印刷するマクロを作ってみましょう。

▼[マクロの実行アクション]を追加する



① マクロの実行アクションを追加します。

① [マクロの実行]を選択する

Onepoint

マクロ名などは、まだ指定しないままにしておきます。

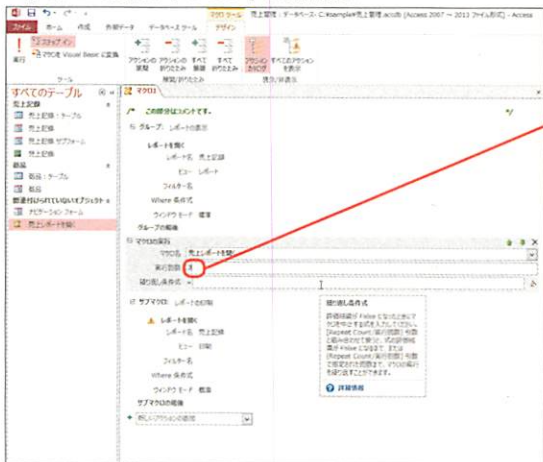
▼サブマクロの実行



② 実行したいマクロ名を指定します。

② [売上レポートを開く]を選択する

▼[マクロの実行アクション]の引数設定



③ 実行回数の指定をします。

③ 実行回数に3と入力する

9
Accessの
カスタマイズ

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

Process

エラー時の動作を設定するには

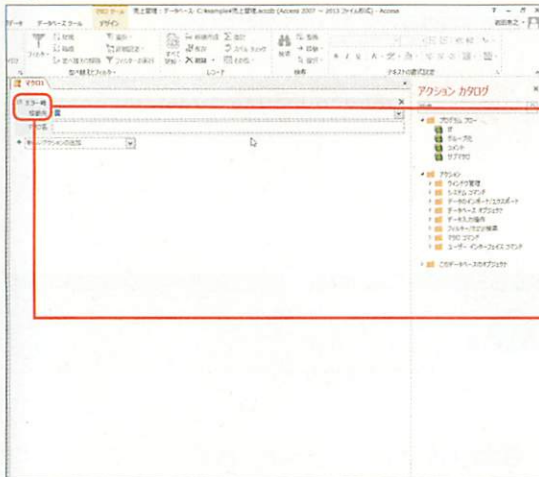


マクロの途中でエラーが起きたときは、通常はエラーメッセージを出力して、マクロのステップ実行ダイアログが表示されます。この動作をカスタマイズして、エラーが起きたときの動作を指定することができます。



エラー時の動作を指定するには、**エラー時アクション**を使います。このアクションは、通常、マクロの最初の行に設定します。ここでは例として、エラーメッセージを出さずに次の行に進むように設定してみます。

▼ [エラー時] アクション

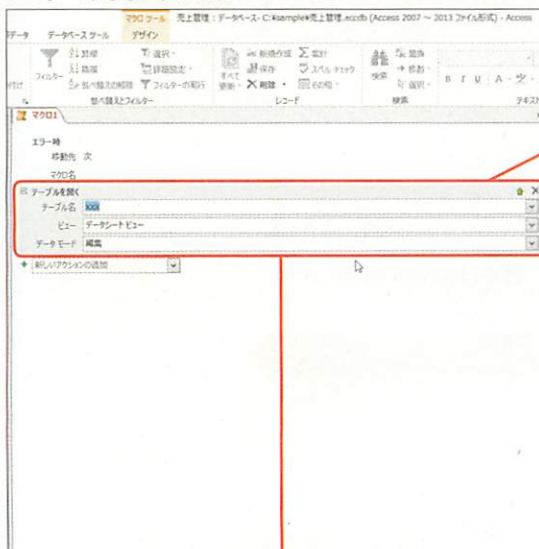


① エラー時アクションを追加します。

① [エラー時]アクションを追加する

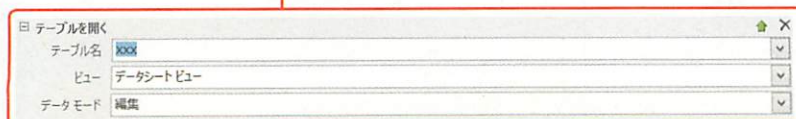
エラー時
移動先

▼ エラーのあるアクション

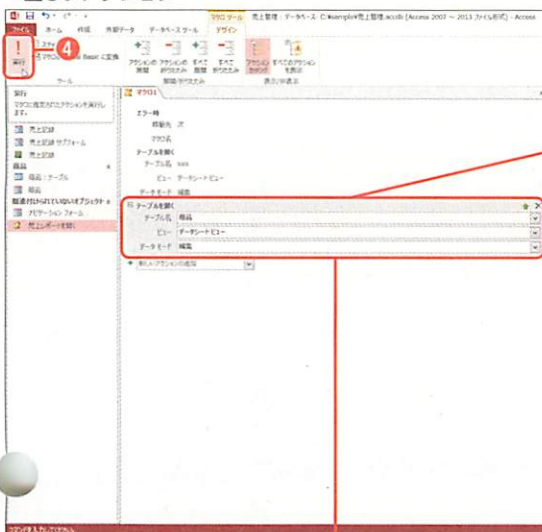


② 間違ったテーブル名を指定してテーブルを開くアクションを追加します。

② エラーのあるアクションを追加します



▼正しいアクション



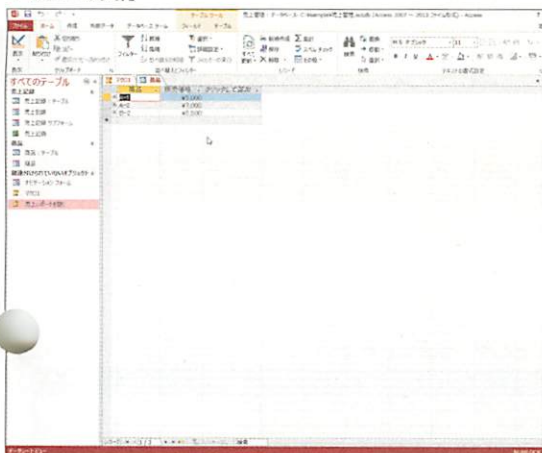
- ③ 次にエラーのないアクションを追加します。
④ このマクロを実行してみます。

③ [レポートを開く]アクションを追加する

④ [実行] ボタンをクリックする



▼マクロの実行



- ⑤ エラーのあるアクションは無視されて、次のエラーのないアクションが実行されます。

エラーのないアクションだけが実行される

Onepoint

- 最初のエラー時アクションを取り除いて、実行結果を比較してください。



Memo エラー時アクションの移動先

エラー時アクションの移動先には、次のいずれかを指定します。

移動先	機能
次	エラーが発生したアクションは無視され、次の行に進みます。
マクロ名	エラーが発生した場合、指定した名前のマクロが実行されます。マクロ名の指定は、マクロ名プロパティで行います。
失敗	エラーが発生した場合、マクロの実行を中止します。

9
Accessの
カスタマイズ

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index



Memo 一時変数

マクロで使えるアクションの中で、一時変数の機能は使い方が少し特殊なので、ここで詳しく説明します。

一時変数とは、一時的に値をしまっておく領域のことです。これを使うと、あるフォームで取得した値を、別のフォームで使うことができるようになります。

それぞれの一時変数に名前を付けることで、複数の一時変数を使うことができます。

一時変数に関するアクションには、次のものがあります。

▼一時変数に関するアクション

名前	説明
一時変数の設定	一時変数に値を設定します。
一時変数の削除	一時変数を削除します。
すべての一時変数の削除	すべての一時変数を削除します。

最初に、**一時変数の設定**アクションを使って、指定した名前の一時変数に値を設定します。これによって、マクロなどの式の値として一時変数の値を呼び出すことができるようになります。

一時変数の値を呼び出すには、変数の名前の前に「TempVars!」と付けます。

例えば、AAAという名前の一時変数に設定した値を呼び出すには、式の値として「TempVars!AAA」と記述します。

一時変数の値を変更するには、もう一度一時変数の設定アクションを実行します。前に設定された値は消去され、新しい値に置き換わります。

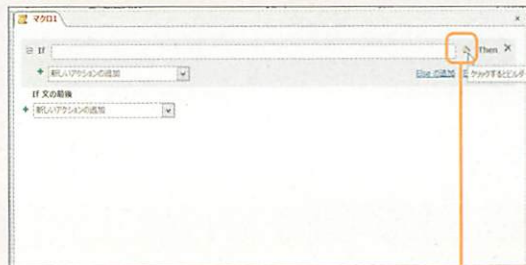
変数の使用が終わったら、一時変数の削除（もしくはすべての一時変数の削除）アクションを実行して、一時変数を削除します。



Memo ビルダーとは

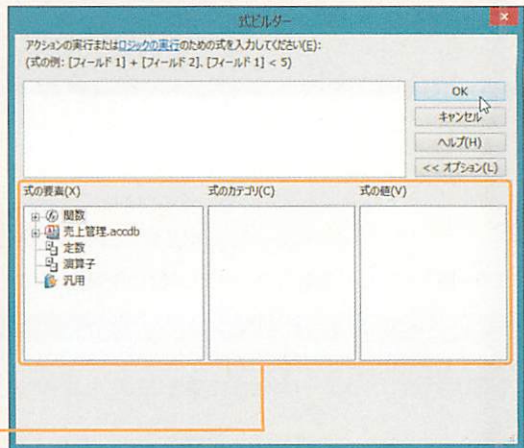
条件式を記入する際に、ビルダーを使用することができます。ビルダーを使うと、式を対話的に組み立てることができます。ビルダーを使うには、ビルダーボタンをクリックします。

▼[ビルダー]ボタン



[ビルダー] ボタンをクリック

▼ビルダーが表示された



要素を選択すると式が選択される

9.1.4

データマクロ

通常のマクロでは、「フォームを開く」とか「Accessを終了する」といったように、Accessの処理を実行します。それに対して、テーブルのデータを処理するためのマクロを、データマクロといいます。

データマクロは、直接呼び出すことはできません。「データマクロの実行」アクションを使って他のマクロから呼び出すか、あるいはイベントに対して設定します。

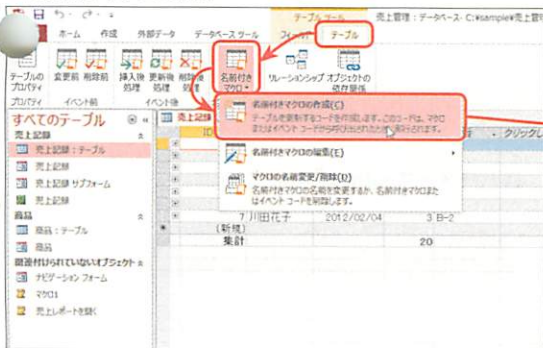


Process

データマクロを作成するには

データマクロは、テーブルに対して作成しますので、テーブルを開いて作業を開始します。

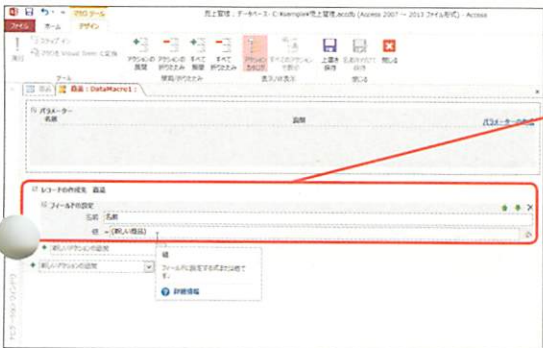
▼名前付きマクロの作成



① 名前付きマクロの作成を実行します。

① [テーブル]タブの[名前付きマクロ]の中の[名前付きマクロの作成]をクリックします。

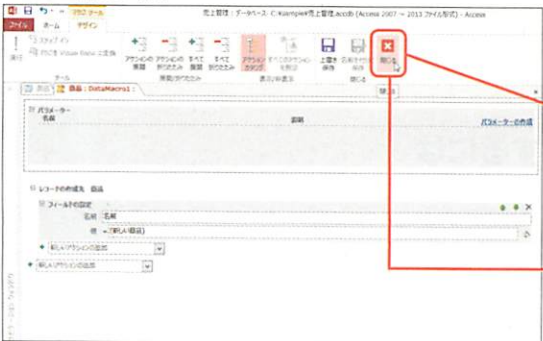
▼アクションの追加



② アクションを追加します。

② アクションを追加する

▼マクロ編集の終了



③ マクロの編集を終了します。

③ [閉じる]をクリックする



9

Accessの
カスタマイズ

10

フォームや
レポートの設計

11

アプリを
作成する

12

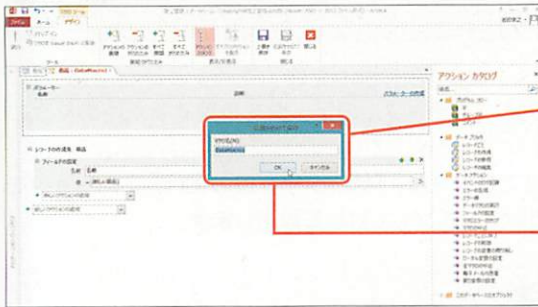
テンプレートの
使用

13

データベース
作成の手順資料
Appendix索引
Index

9.1 マクロを使う

▼名前の指定



④ マクロの名前を指定します。

④ 名前を入力し、[OK]をクリックする



Process

パラメーターを設定するには

データマクロに対して、呼び出し時にパラメーターを設定することができます。パラメーターの設定は、マクロの編集画面で行います。

▼パラメーターの追加

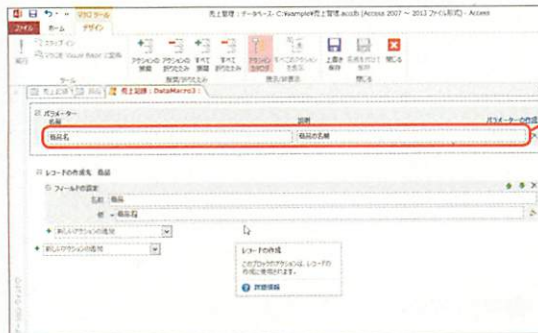


① パラメーターの作成を実行します。

① [パラメーターの作成]をクリックする

パラメーターの作成

▼必要事項の入力



② 名前と説明を入力します。

② 名前と説明を追加する

Onepoint

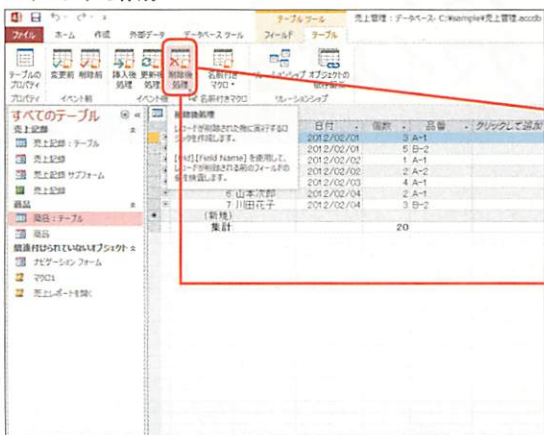
1つのデータマクロに対して、パラメーターを複数指定することができます。

Process

イベント時のマクロを設定するには

テーブルのイベントに対してマクロを設定すると、テーブル内のレコードが編集されたときに、自動的にマクロを実行することができるようになります。テーブルのイベントには5種類あり、それぞれのボタンをクリックすることで作成や編集が行えます。例えば、削除後処理イベントに対してマクロを設定するには、次のようにします。

▼ イベントの作成

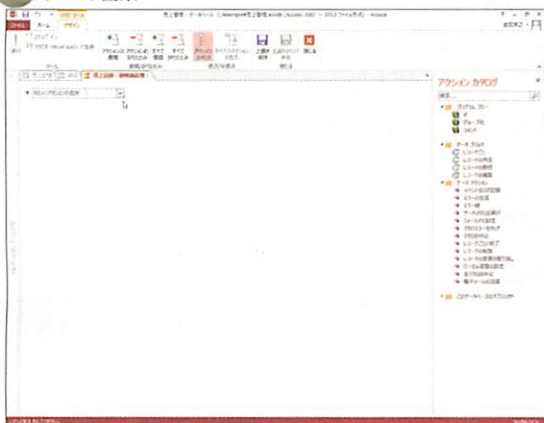


① 削除後処理イベントの編集を実行します。

① [削除後処理]をクリックします



マクロの編集



② マクロの編集画面が開きます。

マクロの編集画面が開いた

Onepoint



すでにイベントにマクロが設定されている場合は、マクロの編集画面になります。



Memo テーブルのイベントの種類

テーブルのイベントには、以下のものがあります。

移動先	名前	説明
イベント前	変更前	エラーが発生したアクションは無視され、次の行に進みます。
	削除前	レコードが削除される時に実行されます。
イベント後	挿入後	レコードの挿入時、[変更前]マクロが実行された後に実行されます。
	更新後	レコードの更新時、[変更前]マクロが実行された後に実行されます。
	削除後	レコードの削除時、[削除前]マクロが実行された後に実行されます。

イベント前のマクロでは、エラーの生成アクションを実行することで、対象となる処理自体をキャンセルすることができます。

例えば、削除前イベントのマクロでエラーが生成されると、レコードの削除処理自体が取り消されます。

これを利用して、特定の条件において削除や更新をさせないようにすることができます。

レコードの挿入や更新などの操作に連動して別の処理をさせたい場合には、イベント後のマクロを主に使います。

9
Accessの
カスタマイズ

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index



リボンとナビゲーション ウィンドウをカスタマイズする

Keyword ● リボン ● ナビゲーションウィンドウ ● カスタマイズ

リボンは、画面の上に表示され、各種のコマンドを提供します。ナビゲーションウィンドウは、画面の左に表示され、操作対象となるテーブルやフォームなどを表示します。

どちらも、通常の使用では、デフォルトのままでも問題になることはほとんどありません。しかし項目数が多過ぎるせいで、あまりすっきりしていないと感じる場合には、項目をカスタマイズして、使いやすくすることができます。

Point リボンとナビゲーションウィンドウのカスタマイズ

ここでは、リボンとナビゲーションのカスタマイズ方法を説明します。

● リボンにコマンドを追加する

● リボンにタブやグループを追加する

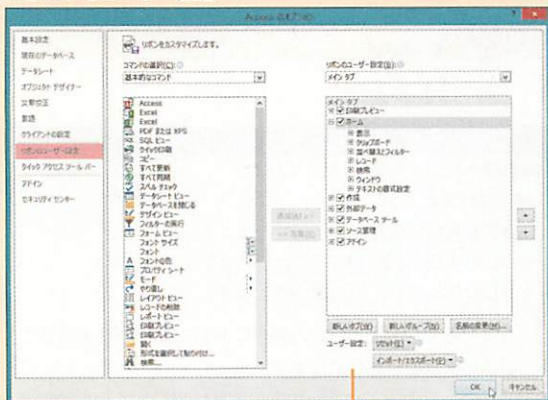
● 設定を元に戻す

● ナビゲーションのカテゴリを追加する

リボンに対して、タブを追加して、そこに独自のコマンドを追加することができます。ナビゲーションウィンドウに対しては、カテゴリを新規作成して、独自のデータベースオブジェクトをグループ化することができます。

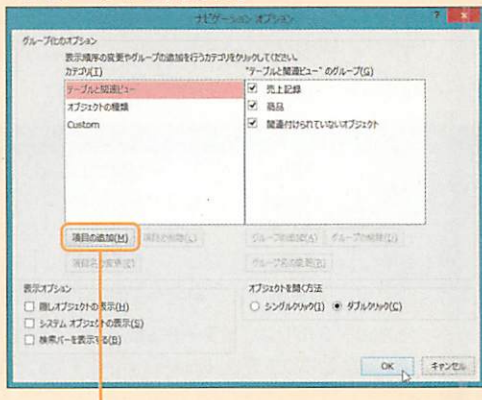
あまりカスタマイズし過ぎると、他の人が使うときにとまどってしまうため、カスタマイズした設定を元に戻す方法も用意されています。

▼リボンのユーザー設定



タブを追加できる

▼ナビゲーションオプション



カテゴリを追加する

9.2.1

リボンをカスタマイズする



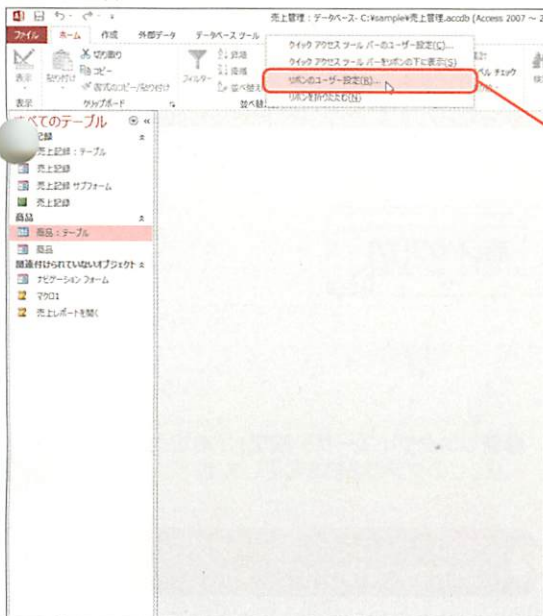
リボンのカスタマイズは、リボンのユーザー設定画面を使って行います。この画面で、コマンドの追加や並べ替え、タブやグループの追加などができます。

Process

リボンのユーザー設定画面を開くには

リボンのユーザー設定画面を開くには、リボンの右クリックメニューを使用します。

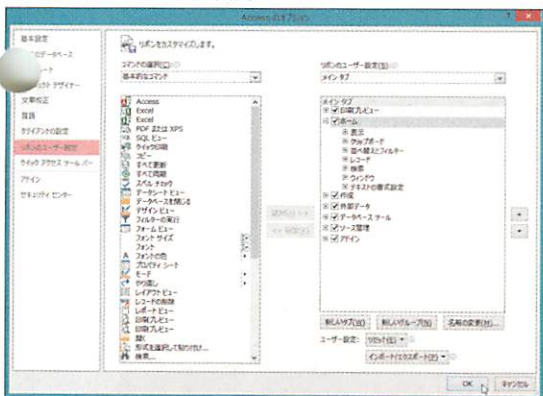
▼リボンの右クリックメニュー



① リボンで右クリックメニューを表示し、リボンのユーザー設定をクリックします。

① [リボンのユーザー設定]をクリックする

▼リボンのユーザー設定画面



② リボンのユーザー設定画面が表示されます。

リボンのユーザー設定画面が表示される

OnePoint



この画面は、「9.3 オプションを設定する」で説明するオプション画面と同じものです。オプション画面を表示させ、リボンのユーザー設定を選択するという手順でも、同じことができます。

9

Accessの
カスタマイズ

10

フォームや
レポートの設計

11

アプリを
作成する

12

テンプレートの
使用

13

データベース
作成の手順資料
Appendix索引
Index

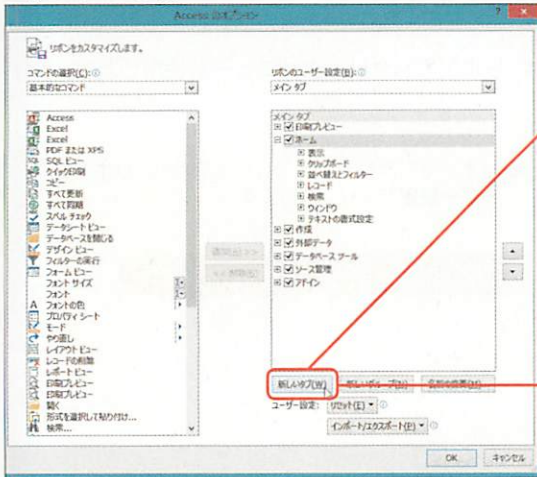
Process

タブを追加するには



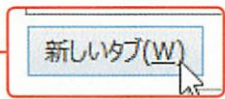
リボンにコマンドを追加する前に、まず、新しいタブを追加します。
既存のタブに対しては、コマンドの追加や削除といった操作をすることはできません。

▼新しいタブの追加

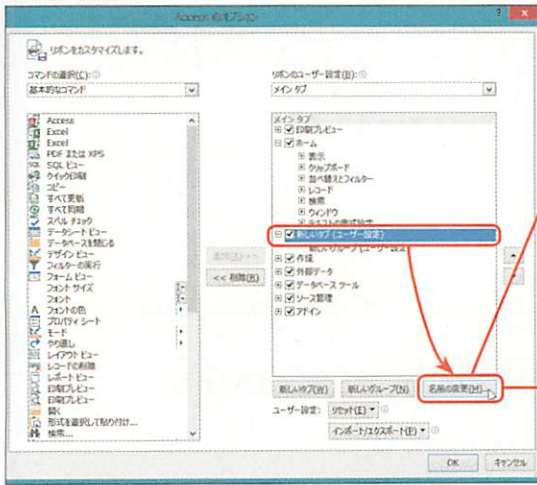


① 新しいタブボタンをクリックします。

1 [新しいタブ] ボタンをクリックする

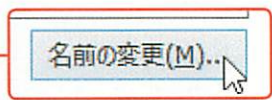


▼名前の変更

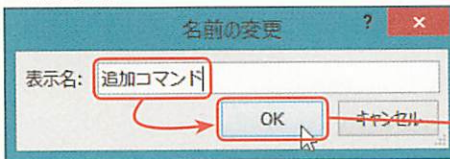


② 新しいタブ(ユーザー設定)が追加されました。次に、このタブの名前を変更します。

2 [新しいタブ(ユーザー設定)] を選択し、
[名前の変更] ボタンをクリックする



▼名前の入力



③ 名前を入力します。

3 [追加コマンド] とタブの名前を入力し、
[OK] ボタンをクリックする

9 Accessのカスタマイズ

10 フォームやレポートの設計

11 アプリを作成する

12 テンプレートの使用

13 データベース作成の手順

資料 Appendix

索引 Index

Process

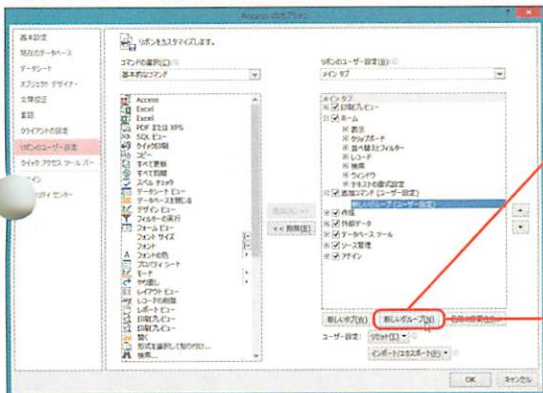
グループを追加するには

リボンの中のそれぞれのタブは、グループに分けられていて、その中にコマンドが配置されます。新しいタブを作成したら、次にグループを作成します。

タブを新規作成すると、新しいグループが自動的に1つ作成されます。このグループに対しては、名前の変更作業だけを実行します。



▼新しいグループの追加

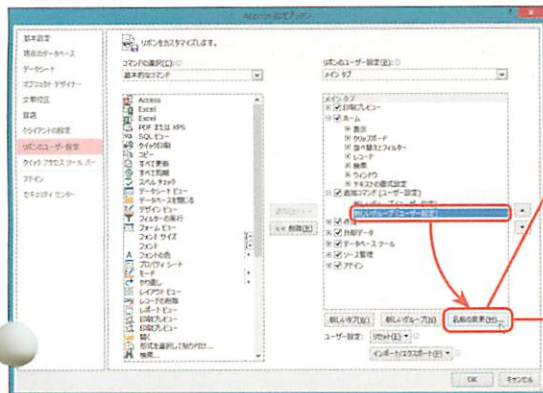


① 対象となるタブを選択した状態で、新しいグループボタンをクリックします。

① [新しいグループ]ボタンをクリックする

新しいグループ(N)

▼名前の変更

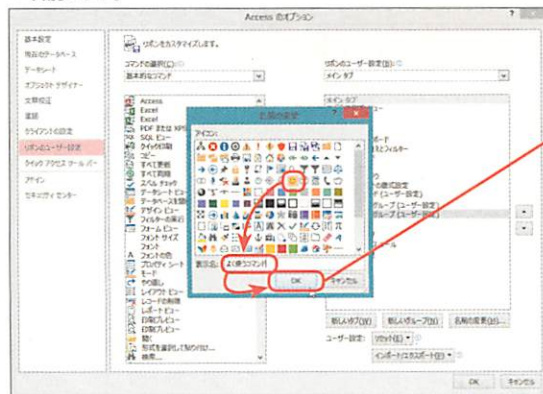


② 新しいグループ (ユーザー設定) が追加されました。次に、このグループの名前を変更します。

② [新しいグループ (ユーザー設定)] を選択し、[名前の変更] ボタンをクリックする

名前の変更(M)...

▼名前の入力



③ アイコンと名前を入力します。

③ アイコンを選択し、グループの名前を入力し、[OK] ボタンをクリックする

9

Accessの
カスタマイズ

10

フォームや
レポートの設計

11

アプリを
作成する

12

テンプレート
の使用

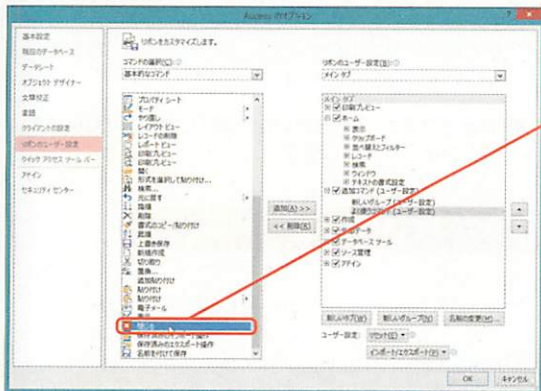
13

データベース
作成の手順資料
Appendix索引
Index

Process コマンドを追加するには

グループを作成したら、その中にコマンドを追加していきます。ここでは例として、閉じるコマンドを追加します。

▼コマンドの選択



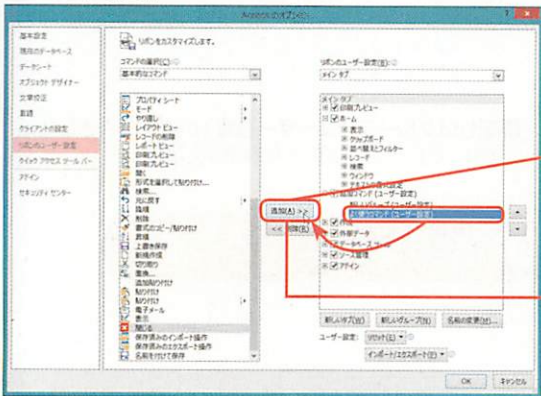
1 追加したいコマンドを選択します。

1 リストの中から[閉じる]を選択する

Onepoint

最初の状態では、基本的なコマンドしかリストに表示されません。コマンドの選択コンボボックスでコマンドの種類を選択することにより、他のコマンドをリストに表示させることができます。

▼コマンドの追加

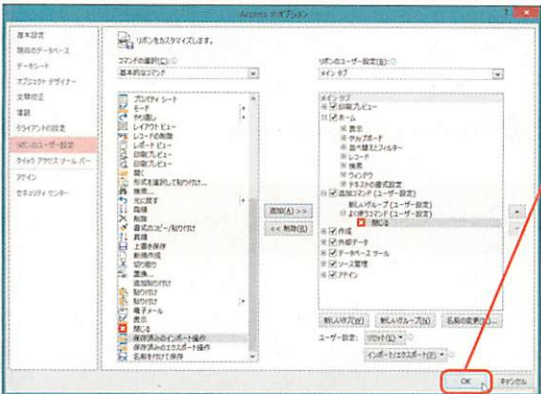


2 追加の対象となるグループを指定して、追加ボタンをクリックします。

2 新しく作成したグループを選択し、[追加]ボタンをクリックする

追加(A) >>

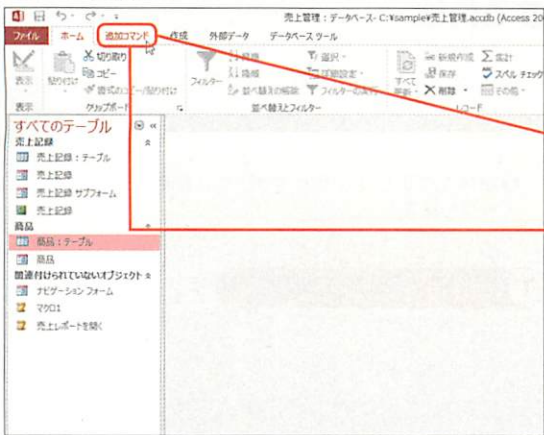
▼コマンドが追加された



3 コマンドが追加されました。ダイアログを終了します。

3 [OK]ボタンをクリックする

▼タブを切り替える

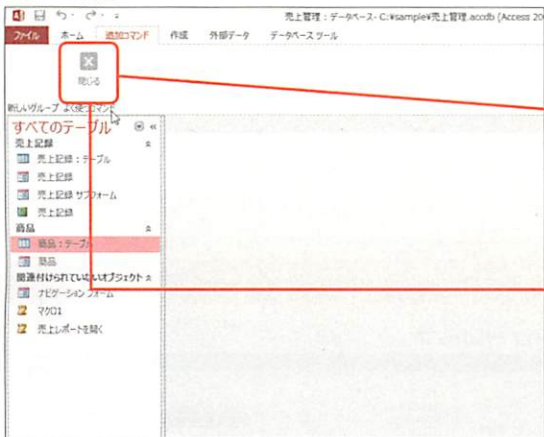


4 タブが追加されていますので、このタブに移動します。

4 [追加コマンド]タブをクリックする

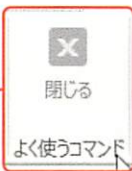


▼タブの内容



5 追加したグループとコマンドが表示されます。

5 [閉じる]コマンドが表示されている

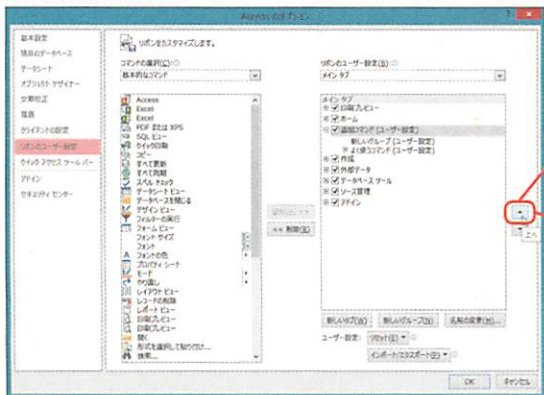


Process

並び順を変更するには

グループやその中のコマンドの並び順を変更するには、次のように操作します。

▼並び順の変更



1 順序を変更したい項目を選択し、矢印ボタンをクリックします。

1 矢印ボタンをクリックする



Onepoint

ユーザー設定ではない既存のタブでは、コマンドやグループの追加はできませんが、並び順の変更は可能です。

9 Accessのカスタマイズ

10 フォームやレポートの設計

11 アプリを作成する

12 テンプレートの使用

13 データベース作成の手順

資料 Appendix

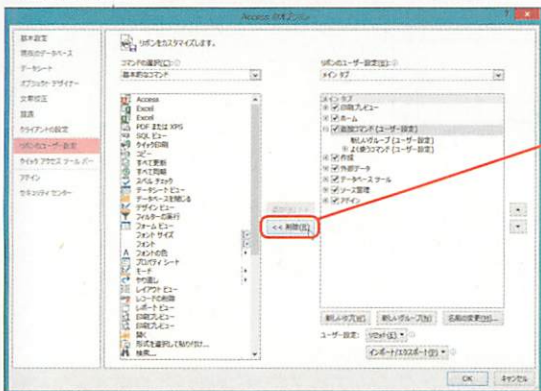
索引 Index

Process

コマンドやグループを削除するには

グループやその中のコマンドを削除するには、次のように操作します。

▼並び順の変更



1 順序を変更したい項目を選択し、削除ボタンをクリックします。

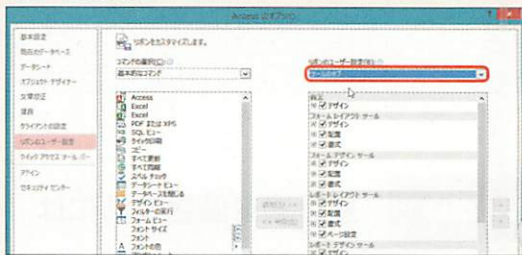
1 [削除] ボタンをクリックする

Memo 特定のツールに対してタブを追加する

テーブルやフォームを開いたときなどに、通常のタブの右側に、状況に応じてタブが追加されます。例えば、テーブルを開くとテーブルツールとグループ分けされた2つのタブが追加されます。このように、特定の状況でのみ表示されるタブを追加することもできます。

リボンのユーザー設定の欄は、通常はメインタブになっていますが、ここをツールのタブに変更すると、すべてのツールとその中のタブが表示されます。この状態で、対応するツールに対してタブを追加します。

▼ツールのタブ

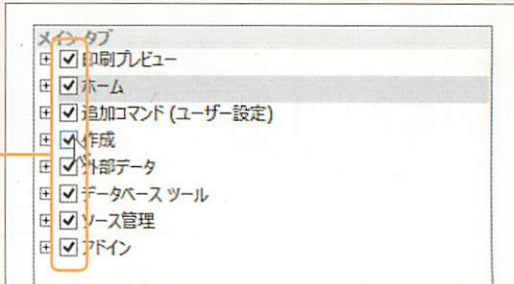


Memo タブを非表示にする

タブ名の左側にあるチェックボックスを外すことで、タブを非表示にすることができます。既存のタブは削除できませんが、非表示にすることで、実質的に削除することができます。

▼タブの非表示

チェックを外すと非表示になる



9.2.2

リボンの設定を操作する

ここでは、リボンの設定を一括してファイルに保存し呼び出す方法と、設定をクリアする方法を説明します。

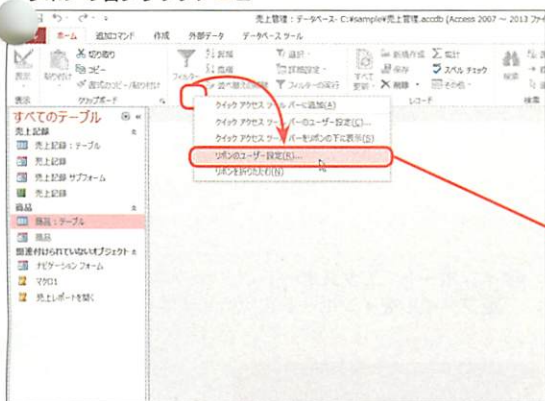
ここで説明した方法を使うと、リボンだけでなく、クイックアクセスツールバー（「2.5.3 クイックアクセスツールバーを使う」を参照）の内容も同じように操作されます。

Process

リボンの設定を保存するには

リボンの設定を保存するには、リボンのユーザー設定画面で、すべての設定をエクスポートを実行します。

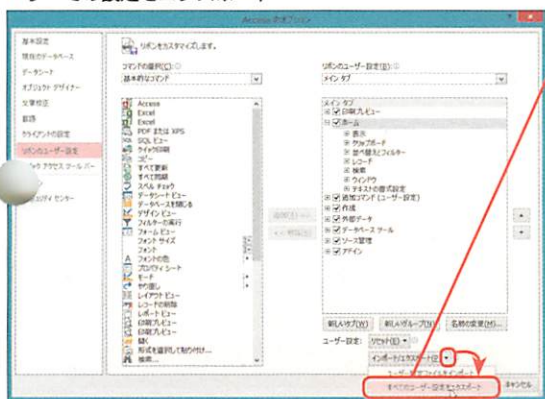
▼リボンの右クリックメニュー



- 1 リボンで右クリックメニューを表示し、リボンのユーザー設定をクリックします。
- 2 インポート/エクスポートボタンの中のすべての設定をエクスポートを実行します。
- 3 保存するファイルの名前を指定します。

1 [リボンのユーザー設定]をクリックする

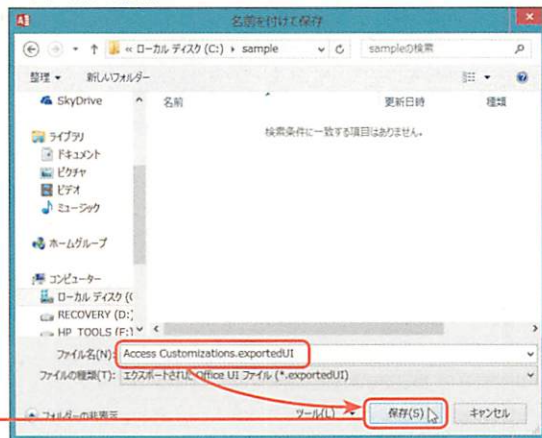
▼すべての設定をエクスポート



2 [すべての設定をエクスポート]をクリックする

3 ファイル名を指定して、[保存]をクリックする

▼ファイルの選択



9
Accessの
カスタマイズ

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

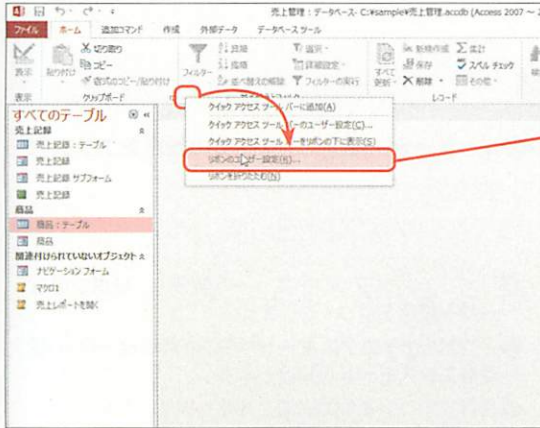
索引
Index

Process

保存したリボンの設定を読み込むには

保存したリボンの設定を再度読み込むには、リボンのユーザー設定画面で、ユーザー設定ファイルをインポートを実行します。

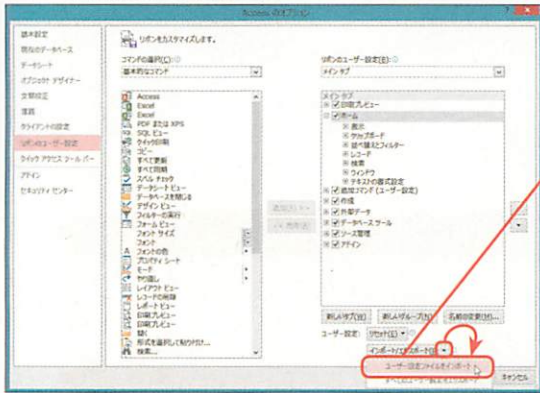
▼リボンの右クリックメニュー



1 リボンで右クリックメニューを表示し、リボンのユーザー設定をクリックします。

1 [リボンのユーザー設定]をクリックする

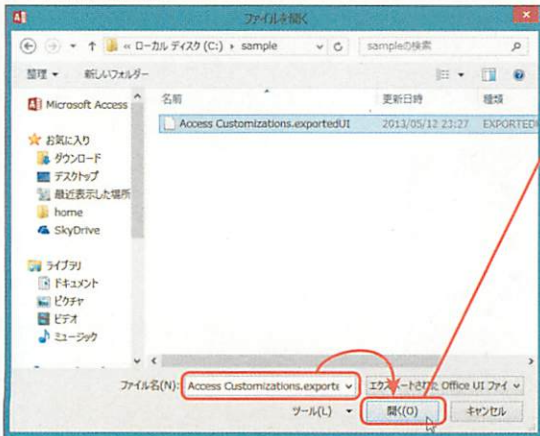
▼すべての設定をエクスポート



2 インポート/エクスポートボタンの中のユーザー設定ファイルをインポートを実行します。

2 [ユーザー設定ファイルをインポート]をクリックする

▼ファイルの選択



3 ファイルの名前を指定します。

3 ファイル名を指定して、[開く]をクリックする

9 Accessのカスタマイズ

10 フォームやレポートの設計

11 アプリを作成する

12 テンプレートの使用

13 データベース作成の手順

資料 Appendix

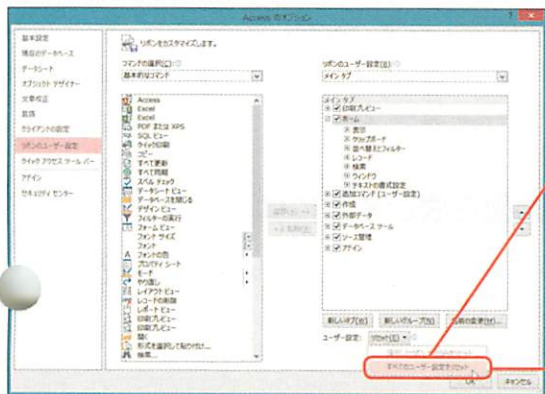
索引 Index

Process

リボンの設定を元に戻すには

リボンの設定を元に戻すには、リボンのユーザー設定画面で、リセットを実行します。すべての設定を元に戻すことも、特定のリボンのみを元に戻すこともできます。

▼すべての設定をリセット



1 リセットボタンの中のすべてのユーザー設定をリセットを実行します。

1 [すべてのユーザー設定をリセット]をクリックする

すべてのユーザー設定をリセット

Onepoint



リセットしたいタブを選んで、選択したリボンタブのみをリセットを実行すると、そのタブの状態だけをリセットすることができます。

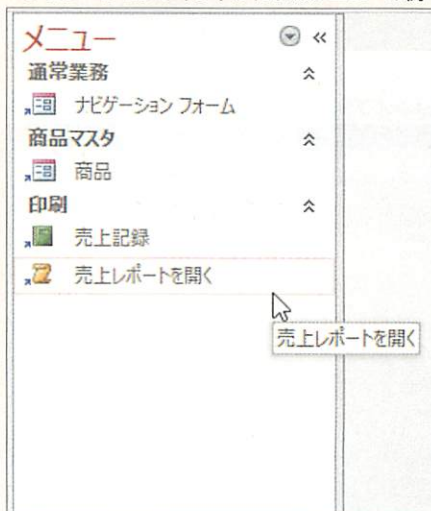


Memo ナビゲーションウィンドウをメニューとして使う

Access 2010以降では、以前のバージョンにあったメニューフォームが廃止されています。代わりにナビゲーションフォームが新設されていますが、こちらはフォームやレポートが主体のため、全体操作やコマンドは配置しにくいという問題もあります。

ナビゲーションウィンドウは、本来、データベース設計時にテーブルやフォームなどを呼び出して使うためのものです。しかし、ナビゲーションウィンドウには、フォームやレポート、クエリやマクロなどを自由な順番でグループごとにまとめて配置することができますので、ナビゲーションウィンドウをうまくカスタマイズしてやると、運用時にメニューと同様に使うことができます。

▼ナビゲーションウィンドウによるメニューの例



9

Accessの
カスタマイズ

10

フォームや
レポートの設計

11

アプリを
作成する

12

テンプレート
の使用

13

データベース
作成の手順資料
Appendix索引
Index

9.2.3

ナビゲーションウィンドウのカスタマイズ

ナビゲーションウィンドウは、テーブルやフォームなどのリストが表示されるウィンドウです。ここには通常、データベースに定義されたすべてのオブジェクトが表示されますが、ここに表示される内容をカスタマイズすることができます。

独自のグループ分けをしたり、一部のテーブルやクエリなどを非表示にしたりすることで、目的とするフォームなどを見付けやすくすることができます。

ナビゲーションウィンドウの操作については、「2.4.2 ナビゲーションウィンドウの表示と操作を確認する」を参照してください。

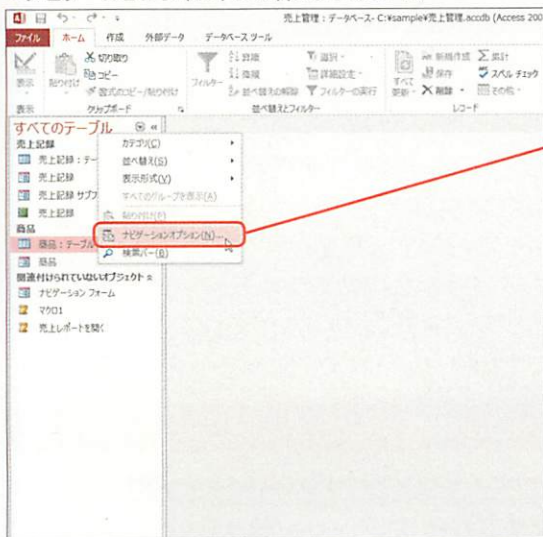


Process

ナビゲーションオプション画面を表示するには

ナビゲーションウィンドウのカスタマイズは、ナビゲーションオプション画面で行います。この画面を表示させるには、次のように操作します。

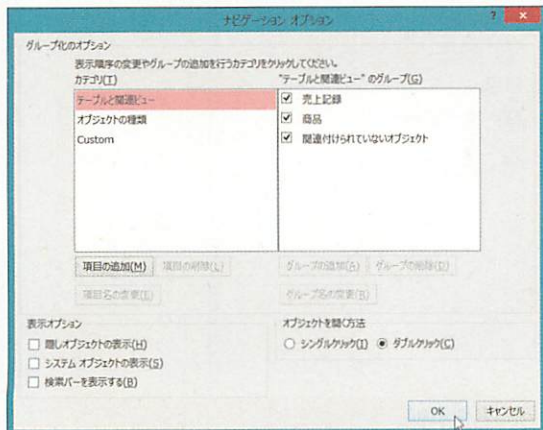
▼ナビゲーションウィンドウの右クリックメニュー



① ナビゲーションウィンドウの右クリックメニューから、ナビゲーションオプションを実行します。

1 [ナビゲーションオプション]をクリックする

▼ナビゲーションオプション画面



② ナビゲーションオプション画面が開きます。

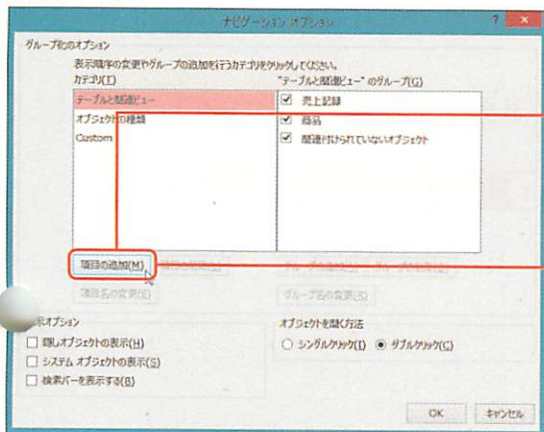
ナビゲーションオプション画面が開いた

Process

カテゴリを追加するには

独自のグループ分けをするには、まずはカテゴリを追加します。

▼項目の追加

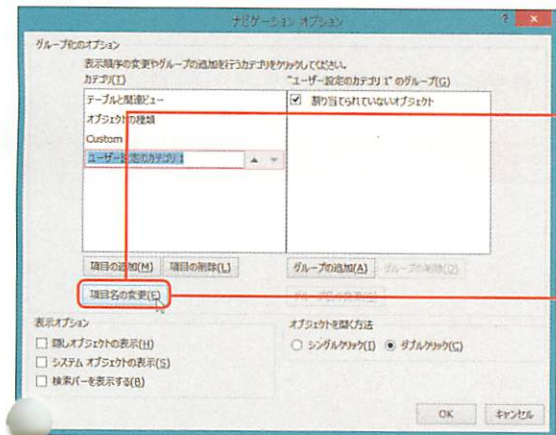


① 項目の追加ボタンをクリックします。

① [項目の追加]ボタンをクリックする

項目の追加(M)

▼名前の変更

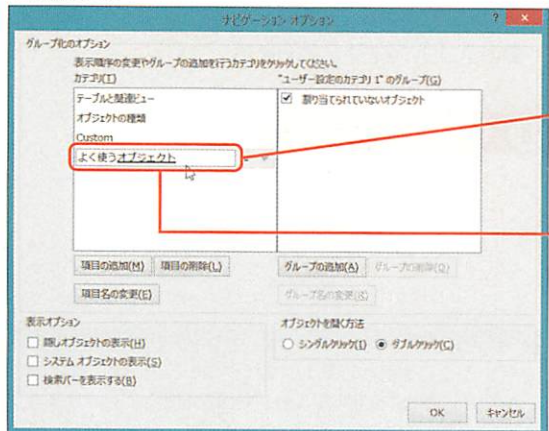


② 項目名の変更ボタンをクリックします。

② [項目名の変更]ボタンをクリックする

項目名の変更(E)

▼名前を入力



③ カテゴリの名前を入力します。

③ 「よく使うオブジェクト」と入力する

よく使うオブジェクト

9
Accessの
カスタマイズ

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

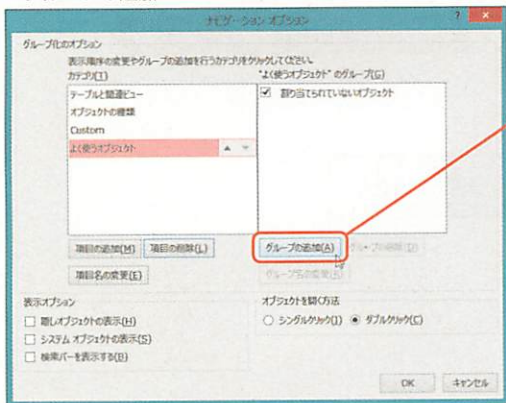
Process

グループを追加するには

カテゴリを追加したら、次にそのカテゴリに対してグループを追加します。

カテゴリを追加すると、割り当てられていないオブジェクトというグループが自動的に追加されます。このグループは削除できません。

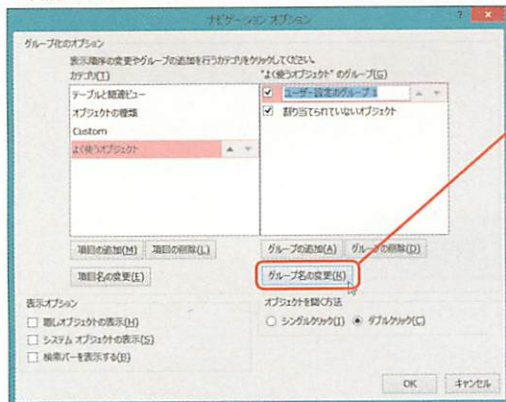
▼グループの追加



① グループの追加ボタンをクリックします。

① [グループの追加]ボタンをクリックする

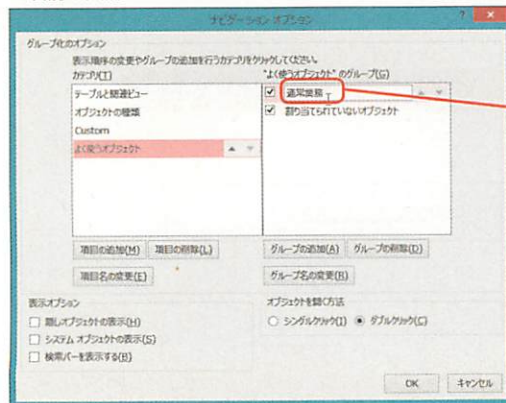
▼名前の変更



② グループ名の変更ボタンをクリックします。

② [グループ名の変更]ボタンをクリックする

▼名前の入力



③ カテゴリの名前を入力します。

③ 「通常業務」と入力する

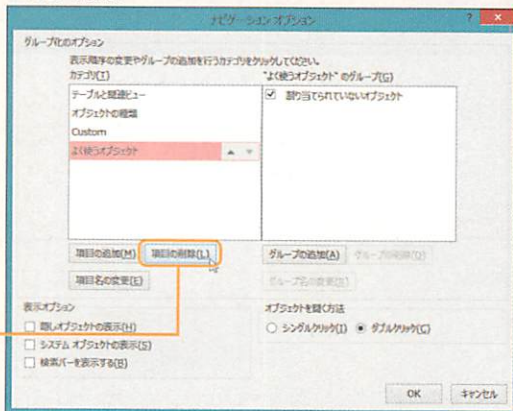
Onepoint

ここでは例として1つだけグループを追加しましたが、通常は複数のグループを順次追加していきます。

Memo カテゴリを削除するには

カテゴリを削除するには、削除したいカテゴリを選択して、**項目の削除**ボタンをクリックします。ただし、削除できるのはユーザーが作成したカテゴリだけで、既存のものは削除できません。

▼項目の削除

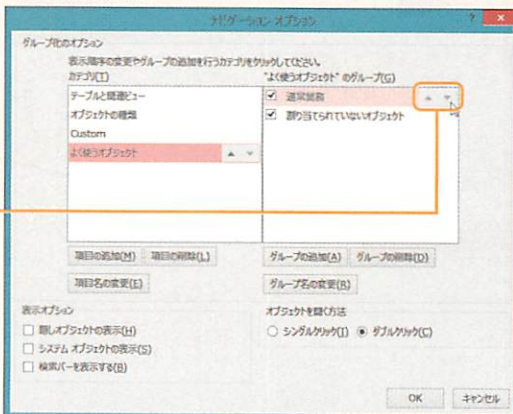


不要なカテゴリを削除

Memo 項目の並べ替え

カテゴリやグループを選択すると、右側に矢印ボタンが表示されます。ここをクリックすることで、順番を変更することができます。

▼順番の変更ボタン



下矢印をクリックすると
順番が後ろへ移動

9
Accessの
カスタマイズ

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

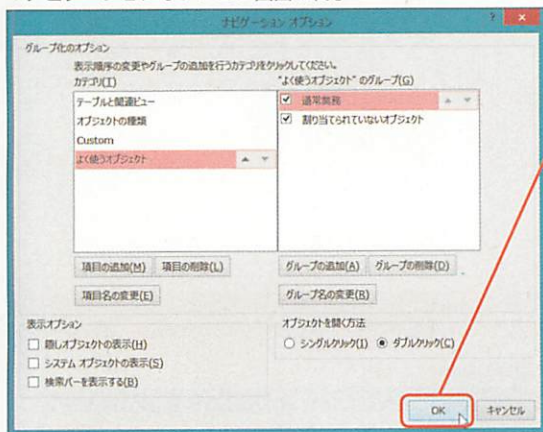
資料
Appendix

索引
Index

Process 内容を設定するには

新しく作成したカテゴリに対して内容を設定する操作は、ナビゲーションウィンドウに戻って行きます。

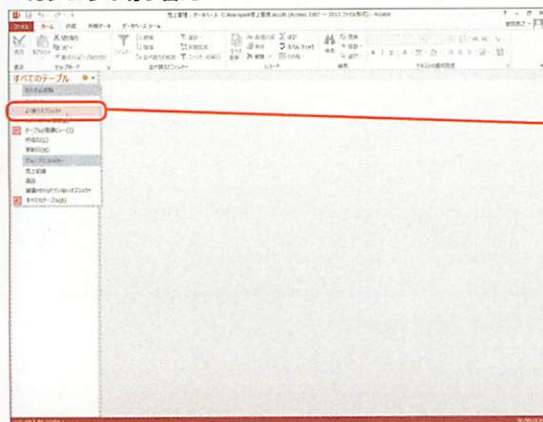
▼ナビゲーションオプション画面の終了



① OK ボタンをクリックします。

① [OK] をクリックする

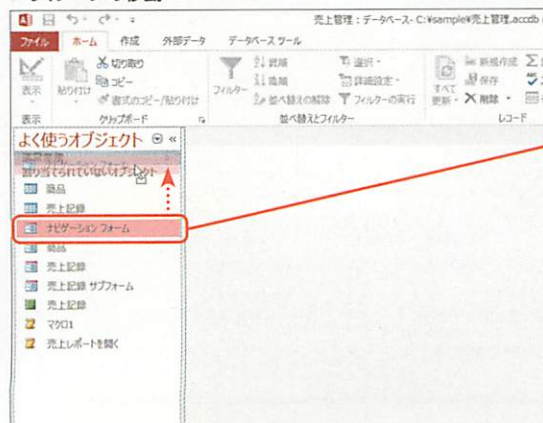
▼カテゴリの切り替え



② 新しく作成したカテゴリに切り替えます。

② タイトル部分をクリックし、「よく使うオブジェクト」を選択する

▼グループの移動



③ 割り当てられていないオブジェクトに入っている項目を、グループにドラッグします。

③ 項目をドラッグする

Onepoint



グループ内での並べ替えはできません。



オプションを設定する

● SampleData
http://www.shuwasystem.co.jp/
books/accessper2013/



chap09 sec03

Keyword ● オプション ● オートコレクト ● 詳細設定

Accessのオプション画面を使うと、Accessの既定の動作をカスタマイズすることができます。このオプション画面の項目は非常に多いので、ここではよく使う項目を抜き出して説明します。

Point オプションの設定

ここでは、オプションの設定方法を、目的ごとに分類して説明します。

● データベースをアプリケーションに仕立てるための設定

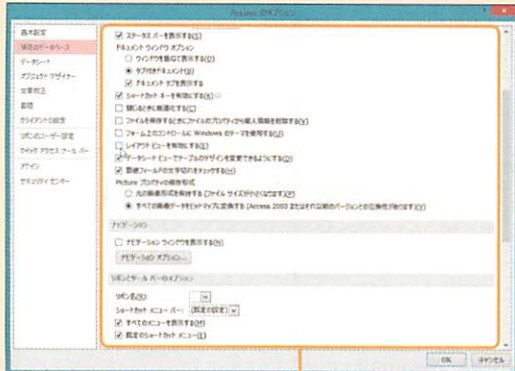
● 細かい動作を自分流に合わせるための設定

● セキュリティの設定

データベースに対して様々な設定をすることで、Accessデータベースを一つのアプリケーションのように見せることができます。

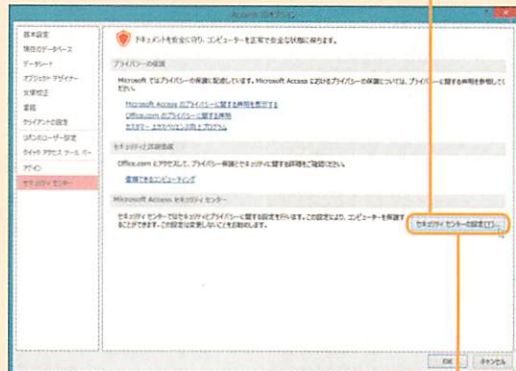
また、Accessを自分の使いやすいように設定する方法や、セキュリティの設定方法についても説明します。

▼データベースの基本設定



ここでオプションを設定する

▼セキュリティの設定



セキュリティセンター

9
Accessの
カスタマイズ

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレートの
使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

9.3.1 オプション画面の使い方

まずは、オプション画面の開き方と使い方を説明します。

Process オプション画面を開くには

オプション画面を開くには、バックステージビューを開いてメニューからオプションを選択します。

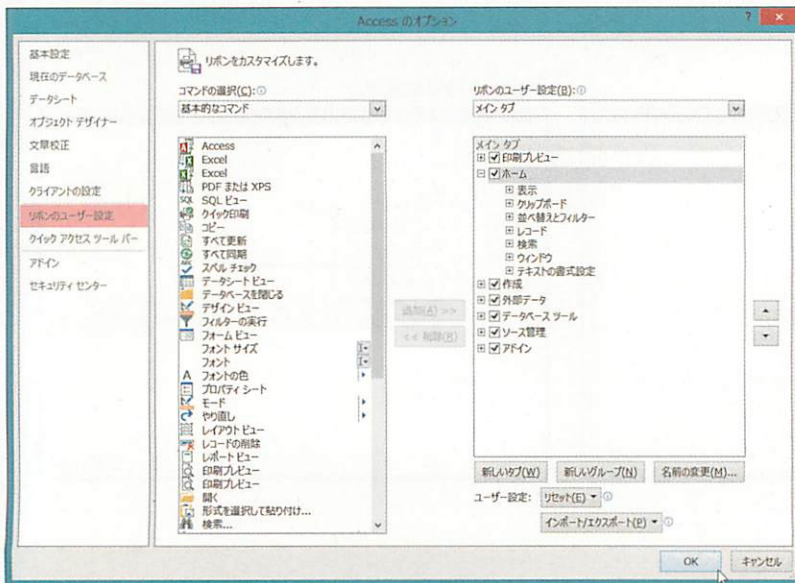
▼【オプション】ボタン



- 1 バックステージビューからオプションをクリックします。
- 2 オプション画面が開きます。

1 バックステージビューから【オプション】をクリックする

▼オプション画面



オプション画面が開く

9.3.2

データベースの設定



ここでは、現在開いているデータベースに対しての設定項目を説明します。ここで説明するオプション設定は、主にデータベースを他人に使ってもらうための設定です。データベースをよく知らない人に使ってもらうために、Accessの機能の高度な部分を隠し、簡単な部分だけを見せるようにします。

Process

最初に関くフォームを設定するには



通常、Accessデータベースを開いたときには、ナビゲーションウィンドウが表示され、メインのドキュメント画面には何も表示されません。これは、使用者がデータベースの構造をよく知っていて、ナビゲーションウィンドウから必要な項目を自分で選べる場合にはいいのですが、データベースの構造をよく知らない人にとっては、何をしたいのか戸惑うこととなります。

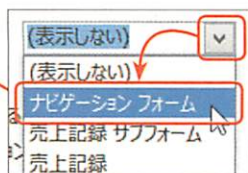
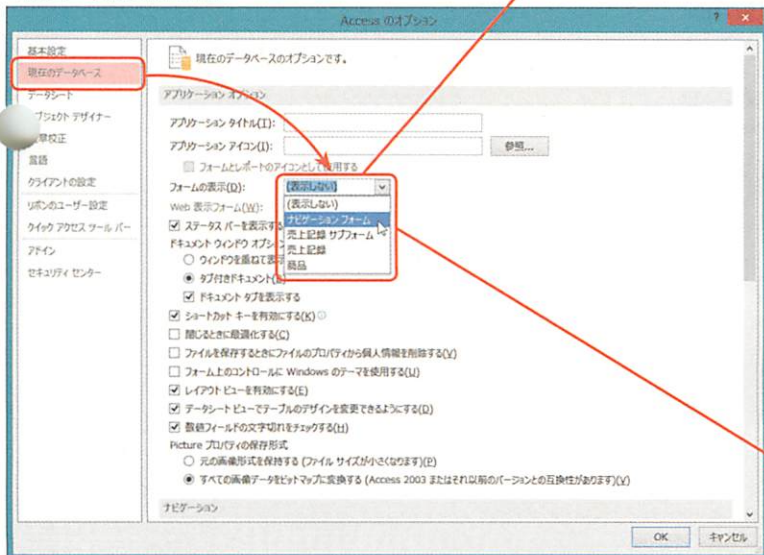


データベースに対して、最初に関くフォームを設定すると、データベースを開いたときにそのフォームが自動的に開くようになります。ナビゲーションフォームを使う場合には、ナビゲーションフォームを最初に関くフォームに設定するのが普通です。こうすると、データベースを開いたときに自動的にナビゲーションフォームが開いて、ユーザーが項目を選択できるようになります。

① オプション画面で、カレントデータベースカテゴリのフォームの表示にフォームを指定します。

① [カレントデータベース] カテゴリで、表示するフォームを指定する

▼ [フォームの表示] 項目



9
Accessの
カスタマイズ

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

Process

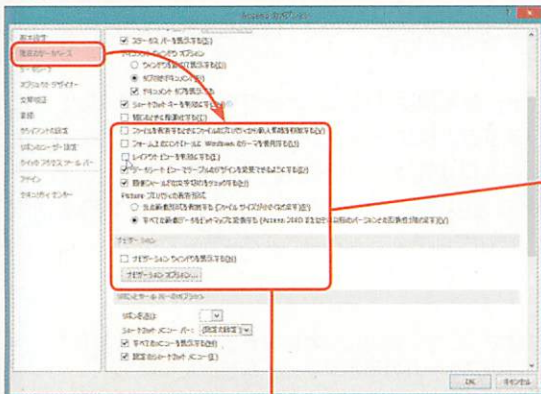
デザイン操作を制限するには

Accessでは、データシートビューでテーブルの設計ができ、レイアウトビューでレイアウトを変更することができます。このことは設計者にとっては便利なのですが、そのデータベースを利用するだけの人でも、ちょっとした操作でデータベースの設計を変更することができてしまいます。



そのような事故を防ぐため、現在のデータベースに対して、データシートビューでのテーブル設計や、レイアウトビューを使えなくすることができます。データベースの設計が完了したら、この設定をすることで、間違った操作によって設計が大きく変更されてしまうことを防ぐことができます。また、メニューフォームを使う場合には、ナビゲーションウィンドウを表示しないことにすると、より安全になります。

▼現在のデータベース



① オプションダイアログで、現在のデータベースカテゴリで指定をします。オプションやナビゲーションのチェックを外して、無効にします。

① [現在のデータベース] カテゴリで、このチェックを外す

- ファイルを保存するときにファイルのプロパティから個人情報削除する(V)
 - フォーム上のコントロールに Windows のテーマを使用する(L)
 - レイアウトビューを有効にする(E)
 - データシートビューでテーブルのデザインを変更できるようにする(D)
 - 数値フィールドの文字切れをチェックする(H)
- Picture: プロパティの保存形式
- 元の画像形式を保持する (ファイルサイズが小さくなります)(E)
 - すべての画像データをビットマップに変換する (Access 2003 またはそれ)
- ナビゲーション
- ナビゲーションウィンドウを表示する(N)
- ナビゲーション オプション...

9
Accessの
カスタマイズ

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

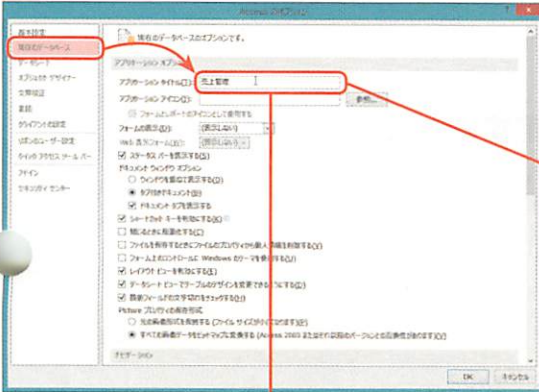
Process

タイトルを設定するには



データベースに対して、アプリケーションのタイトルを設定することができます。このタイトルは、ウィンドウの最上部に表示され、ウィンドウが最小化された場合はタスクバーに表示されます。

▼現在のデータベース



① オプションダイアログで、現在のデータベースカテゴリのアプリケーションタイトルにタイトルを指定します。

① 「現在のデータベース」カテゴリで、タイトルを入力する

アプリケーションタイトル(I): 売上管理



Memo オプション画面のカテゴリ

オプション画面は、いくつかのカテゴリに分かれています。まず、画面左側のカテゴリを選択して、その中で設定したい項目を選択します。

オプション画面のカテゴリには、以下のものがあります。

▼オプション画面のカテゴリ

カテゴリ	機能
基本設定	Accessアプリケーションの基本的な設定をします。
現在のデータベース	現在のデータベースに対する設定をします。詳しくは「9.3.2 データベースの設定」で説明します。
データシート	データシートの表示方法を設定します。
オブジェクトデザイナー	オブジェクトを設計する際の様々な既定動作を設定します。
文章校正	文章が入力されたとき、自動的に校正を行う機能を設定します。
クライアントの設定	Accessの細かい動作を設定します。
リボンのユーザー設定	クイックアクセスツールバーをカスタマイズします。
アドイン	Accessの機能拡張を追加、管理します。
セキュリティセンター	セキュリティの設定を行います。「9.3.4 セキュリティ設定をする」で詳しく説明します。

9

Accessの
カスタマイズ

10

フォームや
レポートの設計

11

アプリを
作成する

12

テンプレート
の使用

13

データベース
作成の手順資料
Appendix索引
Index

9.3.3

Accessの詳細設定をする

ここでは、Accessの細かい使い勝手に関わる設定を紹介します。ここで紹介する設定は、どれも細かい話ですが、使い続けていると気になるものです。自分にとって使い慣れた設定にすることで、作業効率も上がります。

Attention

ここでの設定は、データベースごとではなく、Accessアプリケーションに対して設定されるということに注意してください。データベースファイルを別のPCにコピーして使った場合には、これらの設定は反映されません。

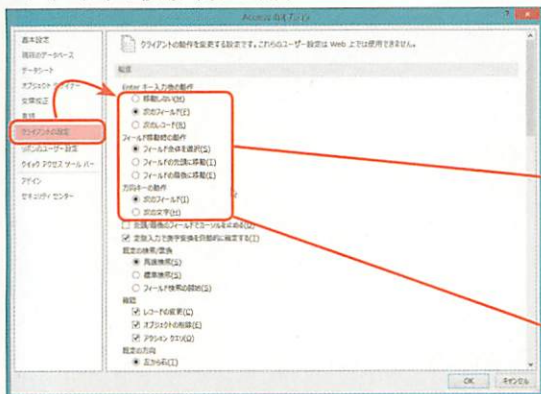
Process

フィールドの移動方法を設定するには

Onepoint

データシートの入力をする際、方向キーや[Enter]キーで入力フィールドの移動ができます。この移動方法を設定する方法を説明します。

▼フィールドの移動に関する項目



1 オプションダイアログで、クライアントの設定カテゴリを選択して設定をします。フィールドの移動に関するオプションを設定します。

1 [クライアントの設定] カテゴリから、動作オプションを指定する

- 移動しない(B)
- 次のフィールド(F)
- 次のレコード(R)
- フィールド移動時の動作
- フィールド全体を選択(S)
- フィールドの先頭に移動(I)
- フィールドの最後に移動(L)
- 方向キーの動作
- 次のフィールド(F)
- 次の文字(H)



Memo フィールドの移動方法指定

指定項目は、それぞれ次の意味を持ちます。

▼フィールドの移動に関する指定項目

[Enter] キー

移動しない	[Enter] キーは入力を確定させるだけで、カーソルは移動しません。
次のフィールド	カーソルが1つ右のフィールドに移動します。
次のレコード	現在のレコードを確定させ、次のレコードに移動します。

フィールド移動時の動作

フィールド全体を選択	フィールドが移動したとき、そこに入力されている文字がすべて選択された状態になります。この後に、キーボードから文字を入力すると、前に入力されていた文字列が新しい文字列に置き換わることになります。
フィールドの先頭に移動	フィールドが移動したとき、カーソルがフィールドの先頭に移動します。文字が入力されると、前に入力されていた文字列の前に挿入されることになります。
フィールドの最後に移動	フィールドが移動したとき、カーソルがフィールドの最後に移動します。文字が入力されると、前に入力されていた文字列の後ろに追加されることになります。

方向キーの動作

次のフィールド	方向キーを押すごとに、1フィールドずつ移動します。
次の文字	方向キーを押すごとに、1文字ずつ移動します。

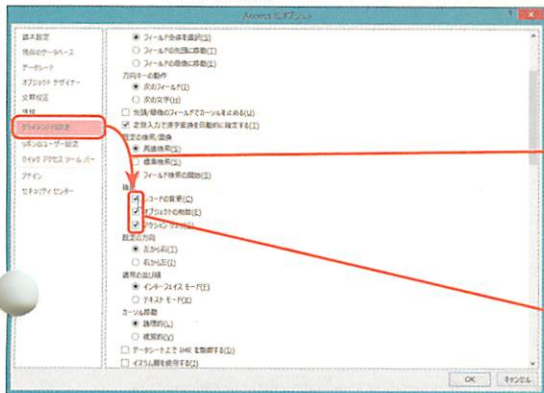
Process

確認メッセージを出さないようにするには



オブジェクトの削除などのときに表示される確認メッセージを、表示させないように設定することができます。

▼確認メッセージに関する項目



① オプションダイアログで、クライアントの設定カテゴリの確認のチェックボックスを外します。

① [クライアントの設定] カテゴリで、
ここのチェックを外す

- レコードの変更(C)
- オブジェクトの削除(E)
- アクション クエリ(Q)

Process

オートコレクトをしないようにするには



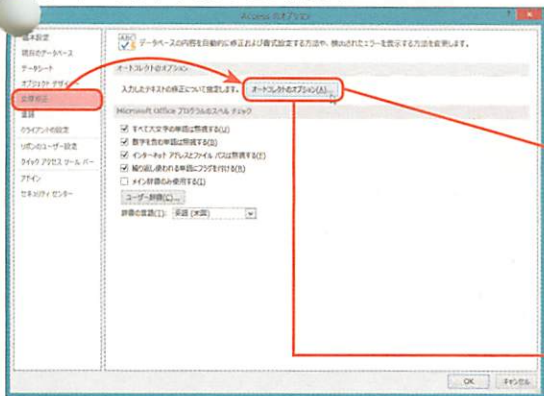
オートコレクトは、入力したテキストのつづり間違いや、大文字小文字の間違いを自動的に校正してくれる機能です。この機能は、残念ながら英語しか対象にならず、日本語の間違ひは校正してもらえません。

オートコレクトは、英単語のつづりをよく間違える人にとっては便利な機能ですが、日本では、そもそも英単語を入力する機会が少ないため、使う機会はあまり多くありません。また、英文字の並びは、すべて英単語であると判断してしまうため、ローマ字の単語や品番など、英単語ではないものが、勝手に修正されてしまうこともあります。



オートコレクトをオフにするには、次のように設定します。

▼[オートコレクトのオプション]ボタン



① オプションダイアログで、文章校正カテゴリのオートコレクトのオプションボタンをクリックします。

① [文章校正] カテゴリで、[オートコレクトの
オプション] ボタンをクリックする

オートコレクトのオプション(A)...

9
Accessの
カスタマイズ

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

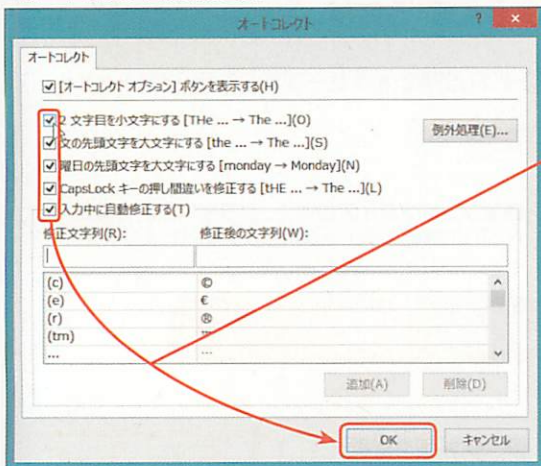
13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

9.3 オプションを設定する

▼オートコレクトのオプション



② 必要のない機能を外します。設定が終了したら、OK ボタンをクリックします。

② 不要な機能のチェックを外し、[OK] ボタンをクリックする

Process

新規データベース作成時のファイル形式を指定するには

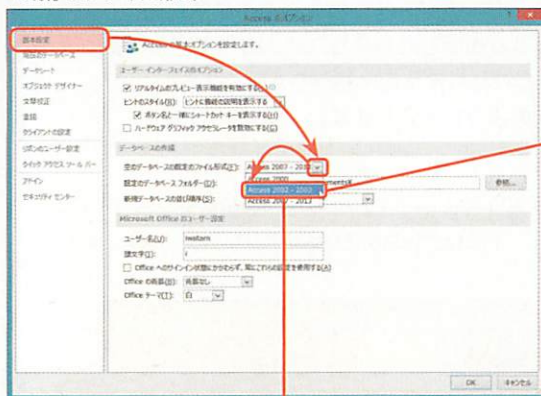
Attention

新規のデータベースは、通常は Access 2007 の形式で作成され、保存されます。この形式では、Access の機能がフルに使えます。しかし、Access 2007 形式で作成されたデータベースは、Access の旧バージョン (Access 2003 や Access 2000 など) では使えなくなってしまいます。

OnePoint

旧バージョンが混在している環境でデータベースを共有して使いたい場合には、新規データベース作成時のファイル形式を旧バージョンに限定しておくといでしょう。

▼既存のファイル形式



① オプションダイアログで、基本設定カテゴリの空のデータベースの既存のファイル形式を設定します。

① [基本設定] カテゴリで、ファイル形式を指定する

Attention

⚡ ファイル形式が共通でも、Access のバージョンによって微妙に動作が違うことがあります。特に、マクロや VBA を使うときは、人間の手を介さず自動的に実行されるため、人間にとっては問題にならない動きの細かな違いのせいで、動作に支障が出る場合があります。マクロや VBA を使うときは、Access のバージョンを混在させない方がよいでしょう。

9
Access の
カスタマイズ

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

9.3.4

セキュリティ設定をする

Microsoft Officeでは、セキュリティの向上も大きなテーマとして掲げています。他人とのデータのやりとりが日常化した現在では、誰が作ったのかわからないようなファイルを実行しなくてはならないことがあります。こうした状況にあっては、悪意のあるプログラムを間違えて実行しないことが、非常に大切になっています。

しかし、そのせいで、明らかに自分が作ったファイルでさえ、いちいちチェックをしないと開けないようになってしまっています。これは、「疑わしきは実行せず」というセキュリティの考え方からすると正しいのですが、とてもわずらわしく感じてしまいます。

こうした問題に対して、Accessでは、設定を変えることで、限定的にセキュリティに関する動作を変えることができます。ここでは、その方法について説明します。

セキュリティに関する設定は、内容をよく理解してから行ってください。単に「面倒だから」とか「他人に説明しづらいから」という理由でセキュリティを外す人をよく見かけますが、ウイルスが高度化した現在では、セキュリティを外すと、高確率でウイルスを拾うことになってしまいます。

ファイルが誰が作ったのかがわかっていて、ウイルスや悪意のあるプログラムが混入していないことが確実であることを、「信頼できる」と形容します。単にファイルに作者の名前が書いてあるだけでは、「信頼できる」とはいえません。作者の名前はいくらでも偽装できるからです。相手をだまそうという悪意のある人の偽装を見破れるようでないと、信頼できるとはいえないのです。

Attention

Onepoint

Process

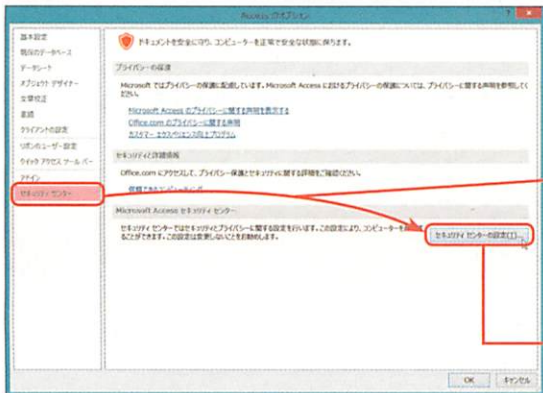
信頼できる場所を設定するには

Important

特定のフォルダーを「信頼できる場所」に設定することで、そのフォルダーにあるファイルはすべて信頼できるものとみなすことができます。自分のPCにフォルダーを作って、完全に信頼できるファイルだけをそのフォルダーに入れることにして、そこを「信頼できる場所」に設定します。そうすると、そのフォルダーの中のファイルにアクセスするときに、いちいちセキュリティ設定を許可する必要がなくなります。

信頼できる場所を設定するには、次のようにします。

▼[セキュリティセンター]カテゴリ



① オプションダイアログで、セキュリティセンターカテゴリのセキュリティセンターの設定ボタンをクリックします。

① [セキュリティセンター] カテゴリから[セキュリティセンターの設定] ボタンをクリックする

セキュリティセンターの設定(I)...

9

Accessのカスタマイズ

10

フォームやレポートの設計

11

アプリを作成する

12

テンプレートの使用

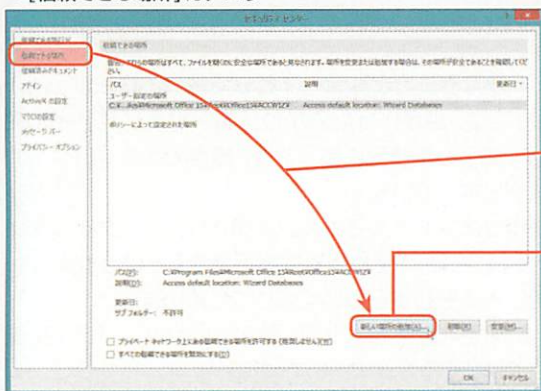
13

データベース作成の手順

資料
Appendix索引
Index

9.3 オプションを設定する

▼ [信頼できる場所] カテゴリ



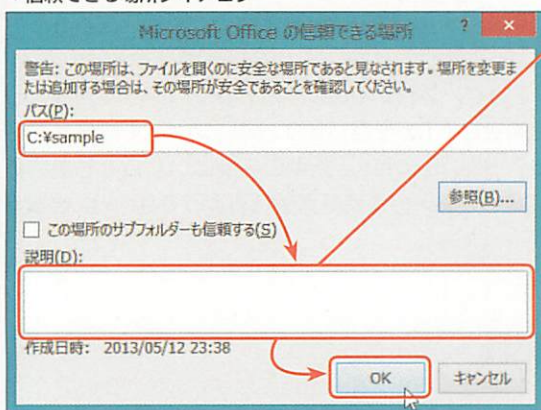
② 信頼できる場所カテゴリを選択して、新しい場所の追加ボタンでリストにフォルダーを追加します。

② [信頼できる場所] カテゴリから [新しい場所の追加] ボタンをクリックする

新しい場所の追加(A)...

③ 信頼できる場所ダイアログに、フォルダーのパスと、説明を追加します。

▼ 信頼できる場所ダイアログ



③ パスと説明を入力し、[OK] ボタンをクリックする

Attention

⚡ 信頼できる場所を設定したら、そこには信頼できるファイルしか置かないように、自分で気を付けなくてはなりません。インターネットからダウンロードしたファイルを「信頼できる場所」に置いてしまったら、ウイルスを実行してしまうことになるかもしれません。

Process

マクロの実行設定を変更するには



信頼できる場所がないファイルを開くと、通常はメッセージが表示されて、マクロの実行が一時的に無効になります。この動作は変更することができます。

▼ [セキュリティセンター] カテゴリ



① オプションダイアログで、セキュリティセンターカテゴリのセキュリティセンターの設定ボタンをクリックします。

① [セキュリティセンター] カテゴリから [セキュリティセンターの設定] ボタンをクリックする

セキュリティセンターの設定(I)...

9 Access のカスタマイズ

10 フォームやレポートの設計

11 アプリを作成する

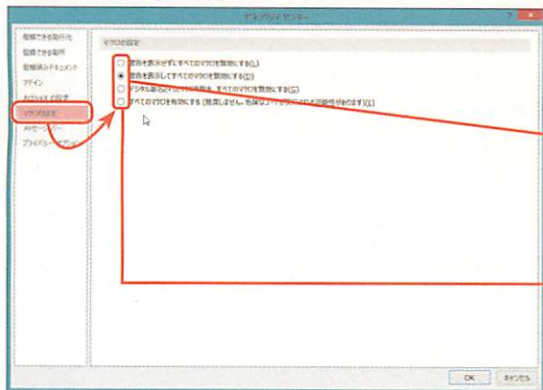
12 テンプレートの使用

13 データベース作成の手順

資料 Appendix

索引 Index

▼ [マクロの設定] カテゴリ



2 マクロの設定カテゴリを選択して、動作を選択します。

2 [マクロの設定] カテゴリから動作を設定する

- 警告を表示せずにすべてのマクロを無効にする(L)
- 警告を表示してすべてのマクロを無効にする(D)
- デジタル署名されたマクロを除き、すべてのマクロを無効にする(E)
- すべてのマクロを有効にする (推奨しません。危険なコードが実行される可能性があります)(E)

Attention

すべてのマクロを有効にするを選択すると、セキュリティ関係の操作をする必要はなくなりますが、おすすめできません。特に理由がない限り、警告を表示してすべてのマクロを無効にするを変えるべきではありません。マクロを使うことがないのなら、警告を表示せずにすべてのマクロを無効にするを設定すれば、セキュリティに関するメッセージをいちいち見なくても済みます。

Memo ネットワークドライブの偽装

初期状態では、「信頼できる場所」のリストに、ネットワーク経由での他のPCのフォルダーを指定することはできないようになっています。ネットワークドライブでは、指定したマシンが本当にそのマシンなのかを確認する手段がないからです。

例えば、あなたがいつも使っている「A」という名前のサーバーPCのフォルダーを「信頼できる場所」に指定したとしましょう。

このとき、別の誰かが自分のPCの名前を「A」に変えてしまい、しかも本来の「A」という名前のサーバーPCの電源を切ってしまったらどうなるでしょうか。あなたはいつものサーバーPC上のファイルを使っているつもりが、別の誰かが用意した別のPCのファイルにアクセスしていることになってしまいます。

現実にはあまり起きることではありませんが、危険性があるのは事実です。ネットワークドライブを「信頼できる場所」のリストに追加する場合は、その意味を十分に理解してから行ってください。

9
Accessの
カスタマイズ

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

Memo デジタル署名の仕組み

インターネットを使うと、世界中のたくさんの人が作ったソフトウェアをダウンロードして使うことができます。しかし、インターネットで公開されているソフトウェアが必ずしも安全であるとは限りません。中には、ソフトウェアにわざとウィルスを仕込んで公開する悪い人もいます。インターネット上で公開されているソフトウェアの安全性を保証するには、そのソフトウェアを誰が作ったかということを見極められるようにすることが重要です。大企業や、信頼できる人が作ったソフトウェアであるということがわかれば、安心してそのソフトウェアをインストールすることができます。

しかし、少し考えてみると、インターネット上のソフトウェアの作者を特定するということは、とても難しいことだということがわかります。インターネットでは、誰もが好き勝手に情報を発信できますので、他人の名前をかたってソフトウェアを公開することだってできてしまいます。

この問題を解決するために、**デジタル署名**という仕組みがあります。特殊なウェブページを開覧する場合や、インターネットからダウンロードしたソフトウェアをインストールしたとき、「このソフトウェアを実行しますか?」というメッセージと共に、発行元の名前が表示されるダイアログを見たことがあるでしょう。このダイアログで表示される名前は、ある精巧な仕組みによって、他人の名前をかたることのできないようになっています。では、どのようにしてこの仕組みが実現されているのでしょうか。

ソフトウェアやデータの作成者は、公開したいデータに対して、「これは私が作成したものです」という意味の署名データを添付します。

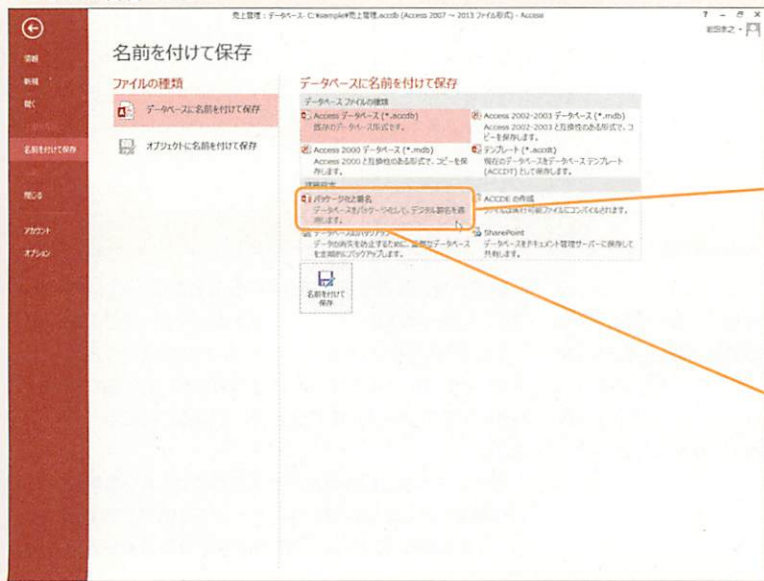
この署名データは、自分だけしか知らないキーワード(**秘密鍵**といいます)を使って、公開したいデータの列からある一定の方法で作成されます。Accessにも署名データを添付する機能があります。

また、作成者は、署名データの解読方法を示す情報を公開します。これは**公開鍵**と呼ばれます。公開鍵を使うと、添付されている署名データが、作者の秘密鍵を使って作成されたものなのかどうかを判定することができます。誰かが公開されているデータを改ざんすると、データの中身と署名データとが合わなくなるため、受け手は何かおかしいということがわかります。

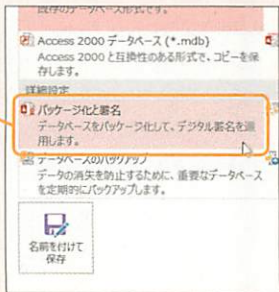
この仕組みのカギの特徴は、公開鍵を使って署名データを解読することはできても、公開鍵から署名データを作り出すことはできない点にあります。考えてみれば、署名を解読する方法は完全にわかっているのに、それを真似して自分で署名を作り出すことはできないというのは、とても奇妙なことです。この奇妙な性質を持つ署名データを作成する技術の背景には、高度に数学的な暗号理論があります。

公開鍵は、確実に作者のものであると保証されないと意味がありませんので、公的な機関(**認証局**といいます)によって管理されています。このことは、いくら高度な技術を使っても、ユーザーである私たちが偽者の公開鍵を本物として受け取ってしまっている意味がないことを示しています。また、いくら作成者の情報が正しく表示される仕組みになっても、作成者不詳のソフトウェアを簡単に実行してしまっても意味がありません。デジタル署名の仕組みを理解し、正しく使うようにしましょう。

▼デジタル署名をする



署名を有効にする





データベース テンプレートを使う

● SampleData
http://www.shuwasytem.co.jp/
books/accessper2013/



Keyword ● データベーステンプレート ● アプリケーションパーツ

データベーステンプレートとは、よく使うテーブルやフォームなどを登録しておき、あとで呼び出して使うことができる機能です。例えば、住所録の部分テンプレートとして保存しておけば、住所録のデータベースを作成するときに簡単に呼び出すことができます。

Point データベーステンプレートを使う

ここでは、データベーステンプレートに関する以下の操作を説明します。

● データベーステンプレートとして保存する

● テンプレートを呼び出す

● アプリケーションパーツを呼び出す

現在のデータベースを、データベーステンプレートとして保存することができます。保存したデータベーステンプレートは、新しいデータベースを作成するときに呼び出すことができます。また、アプリケーションパーツとして登録すると、既存のデータベースに対して、データベーステンプレートの中身を追加することができます。

▼テンプレートの作成画面

このデータベースから新しいテンプレートを作成

名前(N): テストテンプレート

説明(D):

カテゴリ(C): ユーザー テンプレート

アイコン: 64x32 ピクセルで表示(I)

プレビュー(P):

主テーブル(T):

インスタンス化フォーム(E):

アプリケーション パーツ(A)

テンプレートにデータを含める(U)

[テンプレートの詳細プロパティに関する情報を表示します。](#)

[テンプレートをコミュニティで共有します。](#)

OK キャンセル

▼マイテンプレート



名前と情報を入力

9.4.1 データベーステンプレートを保存する

まずは、データベーステンプレートを保存する方法について説明します。

データベーステンプレートも、作成方法は通常のデータベースと同じです。データベースを特別な方法で保存することによって、データベーステンプレートとして扱われるようになります。

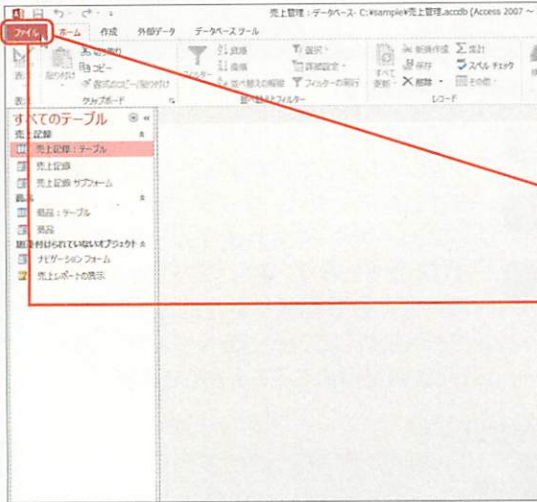


Process

データベーステンプレートを保存するには

データベースをテンプレートとして保存するには、次のようにします。

▼バックステージビュー



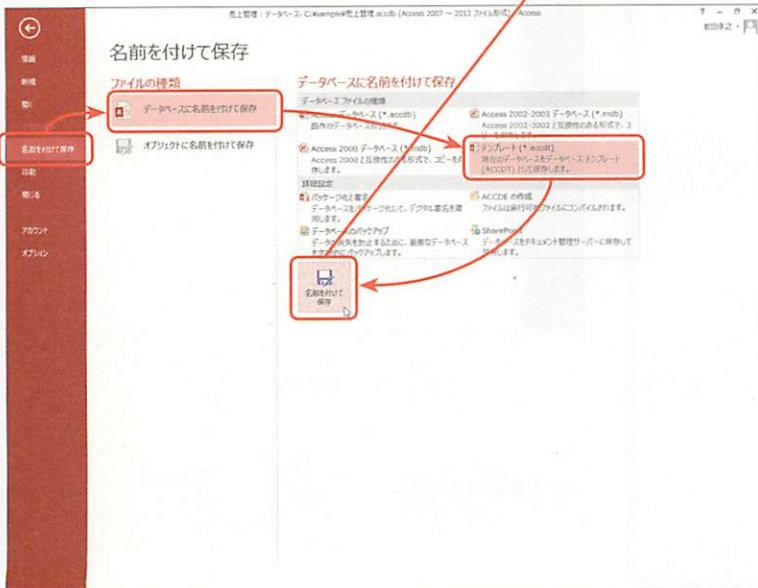
- 1 ファイルタブをクリックして、バックステージビューに移行します。
- 2 名前を付けて保存の中のデータベースとして保存を実行します。

1 [ファイル]タブをクリックする



2 [名前を付けて保存]をクリックし、[テンプレート]を選択して[名前を付けて保存]をクリックする

▼テンプレートとして保存



▼項目の入力

このデータベースから新しいテンプレートを作成

名前(N):
テストテンプレート

説明(D):

カテゴリ(C):
ユーザー テンプレート

アイコン: 64x32 ピクセルで表示(I)

プレビュー(P):

主テーブル(T):

インスタンス化フォーム(E):

アクション パーツ(A)

テンプレートにデータを含める(U)

テンプレートの詳細プロパティに関する情報を表示します。
テンプレートをコミュニティで共有します。

OK キャンセル

- ③ テンプレートの作成ダイアログに対して、必要な項目を入力します。
- ④ テンプレートが保存されたことを示すメッセージが表示されます。

③ 必要な項目を入力し、[OK] ボタンをクリックする

Onepoint



名前以外は、空欄でもかまいません。

▼保存メッセージ

Microsoft Access

テンプレートは 'C:\Users\iwatam\AppData\Roaming\Microsoft\Templates\Access\テストテンプレート.accdb' という名前で正常に保存されました。

この情報は役に立ちましたか?

OK

④ [OK] ボタンをクリックする

Onepoint



テンプレートファイルは、ファイルパスを指定することなく、自動的に専用の場所に格納されます。どのフォルダーに格納されたのがメッセージで表示されるので、そのフォルダーをエクスプローラーで開くことによって、テンプレートファイルにアクセスできます。

9

Accessの
カスタマイズ

10

フォームや
レポートの設計

11

アプリを
作成する

12

テンプレート
の使用

13

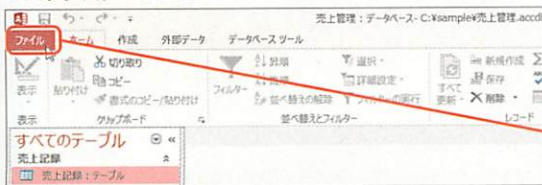
データベース
作成の手順資料
Appendix索引
Index

Process

アプリケーションパーツを保存するには

データベースをアプリケーションパーツとして保存するやり方は、テンプレートを保存するやり方とほとんど同じです。

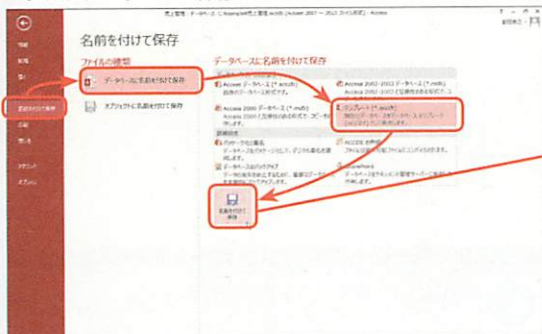
▼バックステージビュー



1 ファイルタブをクリックして、バックステージビューに移行します。

1 [ファイル]タブをクリックする

▼テンプレートとして保存



2 名前を付けて保存の中のデータベースとして保存を実行します。

2 [名前を付けて保存]をクリックし、[テンプレート]を選択して[名前を付けて保存]をクリックする

▼項目の入力

このデータベースから新しいテンプレートを作成

名前(N): テストアプリケーションパーツ

説明(D): テンプレートの名前を指定してください。

カテゴリ(C): ユーザー テンプレート

アイコン: 64x32 ピクセルで表示(I)

プレビュー(P):

主テーブル(T):

インスタンス化フォーム(F):

アプリケーション パーツ(A)

テンプレートにデータを含める(U)

[テンプレートの詳細プロパティに関する情報を表示します。](#)

[テンプレートをコミュニティで共有します。](#)

OK キャンセル

3 テンプレートの作成ダイアログに対して、必要な項目を入力します。

3 必要な項目を入力します

Onepoint



名前以外は、空欄でもかまいません。

▼アプリケーションパーツの指定

このデータベースから新しいテンプレートを作成

名前(N):
テストアプリケーションパーツ

説明(D):

カテゴリ(C):
ユーザー テンプレート

アイコン: 64x32 ピクセルで表示(I)

プレビュー(P):

主テーブル(I):

インスタンス化フォーム(F):

アプリケーション パーツ(A)

テンプレートにデータを含める(U)

[テンプレートの詳細プロパティに関する情報を表示します。](#)

[テンプレートをコミュニティで共有します。](#)

OK キャンセル

- 4 アプリケーションパーツチェックボックスをオンにします。
- 5 テンプレートが保存されたことを示すメッセージが表示されます。

4 [アプリケーションパーツ]チェックボックスをオンにした後[OK]ボタンをクリックする

▼保存メッセージ

Microsoft Access

テンプレートは 'C:\Users\iwatam\AppData\Roaming\Microsoft\Templates\Access\テストアプリケーションパーツ.accdb' という名前で正常に保存されました

OK

[この情報は役に立ちましたか?](#)

5 [OK]ボタンをクリックする

Hint



主テーブルの項目を設定すると、アプリケーションパーツを呼び出すときに、そのテーブルと既存のテーブルとの間にリレーションを設定することができますようになります。

9

Accessの
カスタマイズ

10

フォームや
レポートの設計

11

アプリを
作成する

12

テンプレート
の使用

13

データベース
作成の手順資料
Appendix索引
Index

9.4.2

データベーステンプレートを使う



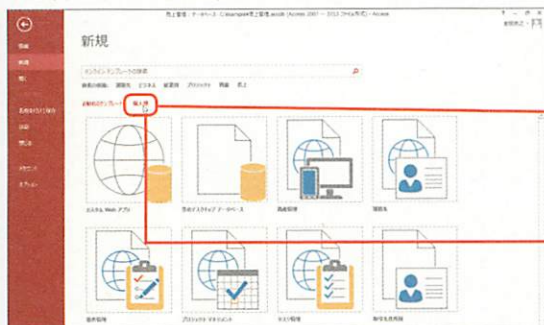
保存したデータベーステンプレートは、データベースの新規作成時に、テンプレートとして呼び出すことができます。「2.2.1 テンプレートから新規作成する」で説明した方法とほぼ同じです。

Process

保存したデータベーステンプレートを使うには

データベースの新規作成をする画面から始めます。

▼マイテンプレートの選択

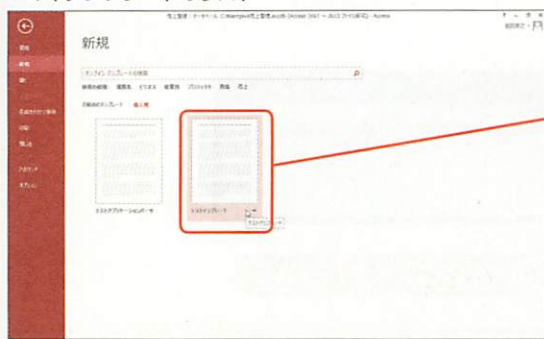


1 個人用を選択します。

1 [個人用]をクリックする

個人用

▼マイテンプレートのリスト



2 保存したデータベーステンプレートを指定します。

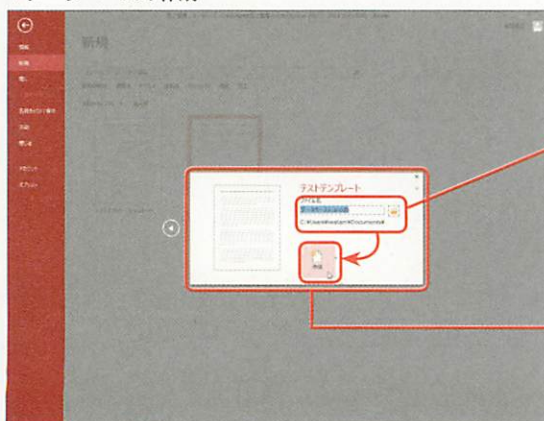
2 テンプレートをクリックする

OnePoint



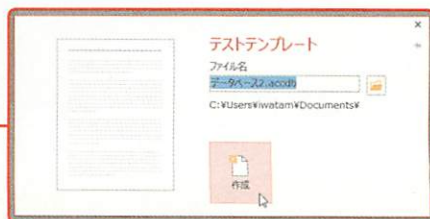
通常、テンプレートを保存すると、個人用に格納されます。

▼データベースの作成



3 データベースの名前と場所を入力して、作成ボタンをクリックします。

3 名前と場所を指定し、[作成]ボタンをクリックする



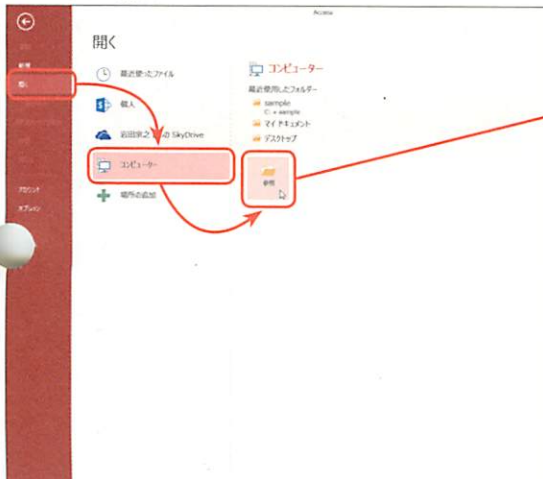
Process

テンプレートファイルを指定して作成するには



自分で作成して保存したテンプレートはマイテンプレートから呼び出すことができますが、テンプレートファイルだけを別の方法で渡された場合には、ファイル名を指定して作成する方法を使います。

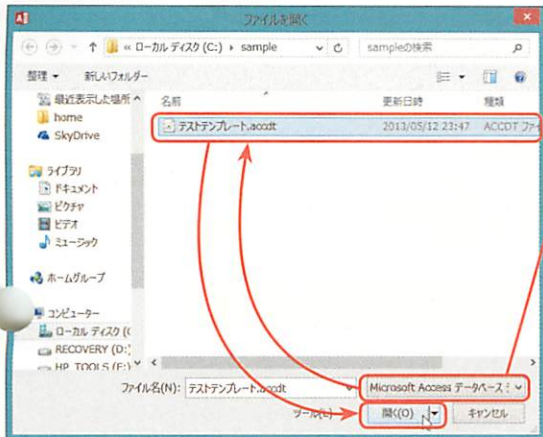
▼ファイルを開く



① 開くから参照ボタンをクリックします。

① [参照] ボタンをクリックする

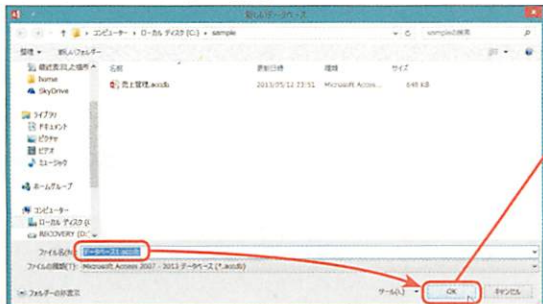
▼テンプレートファイルの指定



② ファイル種別としてテンプレートを指定してテンプレートファイルを開きます。

② Microsoft Access データベーステンプレートを選択したあと、テンプレートファイルを選択して、[開く] ボタンをクリックする

▼データベースファイルの指定



③ 作成するデータベースファイルを指定します。

③ 作成するデータベースファイルの名前を指定して、[OK] ボタンをクリックする

9

Accessの
カスタマイズ

10

フォームや
レポートの設計

11

アプリを
作成する

12

テンプレート
の使用

13

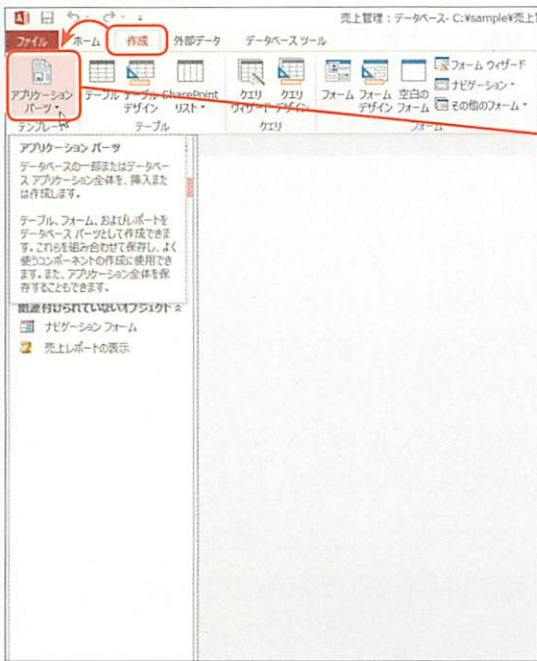
データベース
作成の手順資料
Appendix索引
Index

Process

アプリケーションパーツを使うには

アプリケーションパーツは、テンプレートとは違って、既存のデータベースに対してデータベーステンプレートを取り込む機能です。この操作は、データベースを開いた状態から実行します。

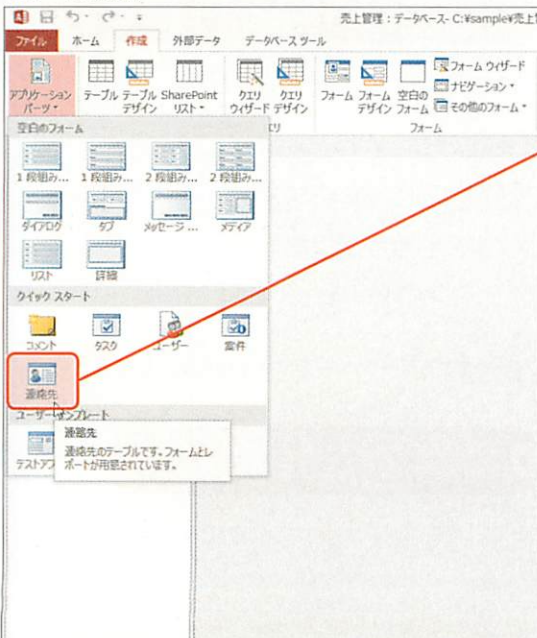
▼アプリケーションパーツ



① 作成タブのアプリケーションパーツをクリックします。

① [アプリケーションパーツ]をクリックする

▼パーツの選択



② リストの中から、使用したいアプリケーションパーツを選択します。

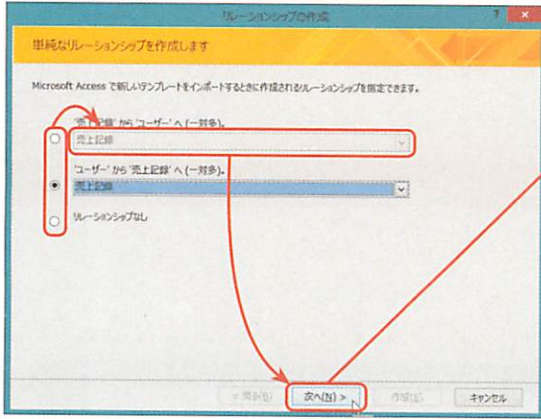
② 使用したいパーツをクリックする

Onepoint



ユーザーテンプレートの中には、「9.4.1 データベーステンプレートを保存する」の手順で保存したデータベーステンプレートのうち、アプリケーションパーツチェックボックスをオンにして作成したものが表示されます。

▼リレーションシップの作成



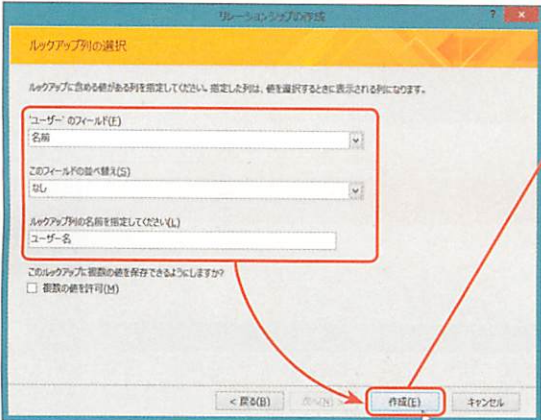
3 アプリケーションパーツの主テーブルに対するリレーションシップを指定します。

3 リレーションシップの種類と対象テーブルを選択し、[次へ]ボタンをクリックする

Onepoint
主テーブルが設定されていないアプリケーションパーツでは、この手順はありません。

Onepoint
リレーションシップでは、方向を指定する必要があります。「〇〇から××へ」という書き方になっていますが、このとき、前者を「一」側、後者を「多」側のテーブルといいます。

▼ルックアップの作成

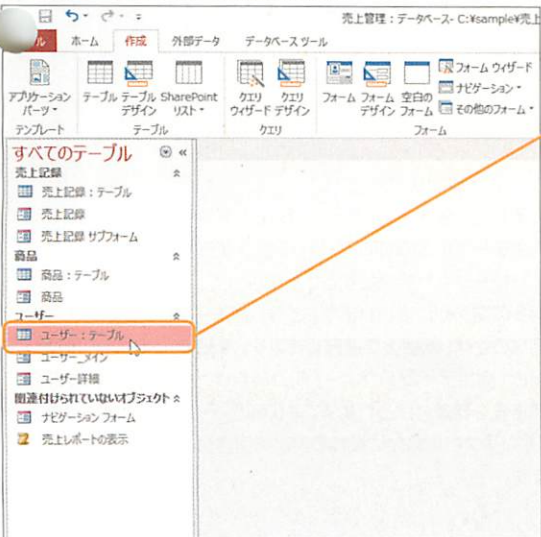


4 ルックアップ列を指定します。

4 ルックアップとして表示する列と、列の名前を選択し、[作成]ボタンをクリックする

Onepoint
リレーションシップの作成画面で指定した、「多」側のテーブルに、ここで指定した名前の列が追加されます。そして、フィールドで指定された列の値がコンボボックスで表示されるようになります。ですから、フィールドには、レコードの内容が一目でわかるような値が入っている列（例えば、住所録の場合は、人の名前が格納されている列）を指定します。

▼アプリケーションパーツが挿入された



5 テーブルが挿入されました。

テーブルが挿入された

9 Accessのカスタマイズ

10 フォームやレポートの設計

11 アプリを作成する

12 テンプレートの使用

13 データベース作成の手順

資料 Appendix

索引 Index

**Memo** テンプレートの作成ダイアログの項目

テンプレートの作成ダイアログには、いくつかの入力項目があります。項目の意味は下表のとおりです。下の表にないものは、アプリケーションパーツの登録のときに使います。

▼ [テンプレートの作成] ダイアログの項目

項目	意味
名前	テンプレートの名前を入力します。
説明	テンプレートの説明文を入力します。
カテゴリ	テンプレートの格納先となるカテゴリを入力します。
アイコン	リスト表示のときに使用されるアイコンのイメージファイルを指定します。
プレビュー	テンプレートを選択したときに右側に表示されるプレビュー画面のイメージファイルで指定します。
インスタンス化フォーム	テンプレートを使ってデータベースを作成したとき、ここで指定したフォームが最初に開かれるように設定されます ([9.3.2] 参照)。
テンプレートにデータを含める	オフの場合は、テーブルの内容は空になった状態で保存されます。オンにすると、テーブルの中身もそのまま保存されます。

**Memo** 標準のアプリケーションパーツ

Access 2013では、次のアプリケーションパーツが標準で入っています。

名前	意味
コメント	既存のレコードに対して、コメントを追加することができます。コメントは独立したテーブルに、日付と共に格納されます。
タスク	優先度や開始日、期限などを設定できるタスクを格納するテーブルと、その編集用フォームが作成されます。
ユーザー	ユーザーの名前と各種情報を格納するテーブルが作成され、それを編集するフォームが用意されます。
案件	タスクに似ていますが、案件を格納するテーブルと編集用フォームが作成されます。
連絡先	住所や電話番号などを格納するテーブルと、編集用フォームが作成されます。

※タスクや案件、連絡先については、Chapter 12も参照してください。

**Memo** 主テーブルとリレーション

アプリケーションパーツにおける**主テーブル**とは、そのアプリケーションパーツにおいてメインとなるデータが格納されているテーブルのことです。例えば、住所録というアプリケーションパーツでは、ユーザーの名前や住所などが書かれているテーブルが主テーブルになります。

既存のデータベースに対して、住所録の機能を追加したい場合に、このアプリケーションパーツを使います。商品のリストが格納されているテーブルに対して、商品調達時の連絡先を記録する機能を追加したいと思ったときには、アプリケーションパーツから住所録を呼び出すこととなります。

そして、商品リストのテーブルと、アプリケーションパーツの主テーブルとの間に、リレーションを追加します。

リレーションを追加することによって、2つのテーブルに1対多の関係が付けられます。どちらが「一」側でどちらが「多」側なのかは、画面上で選択できます。商品テーブルと住所録の場合、商品テーブルが「一」側であれば、1つの商品に複数の連絡先を関連付けられます。逆に商品テーブルが「多」側であれば、1つの連絡先に複数の商品を関連付けられることとなります。



XML 形式とは

Office では、XML 形式に対応しています。Access にはあまり関係がないのですが、Word や Excel などのアプリケーションでは大きな違いがあります。Word や Excel を使ったことがある人なら、Office の独自形式のファイルには拡張子の最後に x が付くことに気が付いたことでしょう。Word や Excel では、ファイルの形式が従来のものと大きく変わっています。

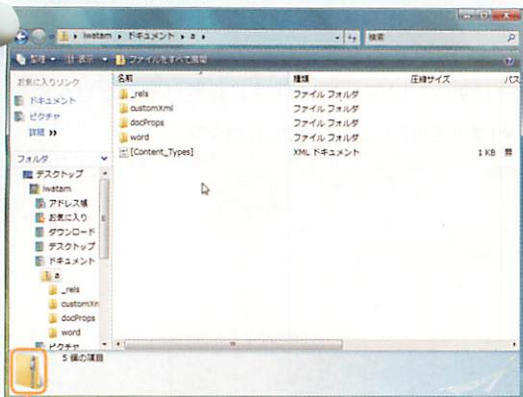
これらのファイルは、実際は ZIP 形式で圧縮された圧縮フォルダのファイルです。Word のファイルを拡張子 docx から zip に変えると、圧縮フォルダとして開くことができます。その中には、拡張子 xml のファイルがたくさん入っています。

XML 形式とは、様々な形式のデータを保存したり通信したりするための、テキストベースのファイル形式です。HTML のように、タグを使ってデータを区分します。実は、HTML も XML 形式の一種です。

XML 形式には、次の特徴があります。

- 1 テキストベースなので、エディタでの編集や表示が簡単である。
- 2 タグを使うことで、複雑なデータ構造を表現できる。
- 3 タグを自分で定義することで、独自のデータ形式を定義できる。
- 4 タグの定義さえわかれば、違うアプリケーションで作成されたデータでも容易に読み込むことができる。

▼ Word ファイルの中身



zip フォルダになっている

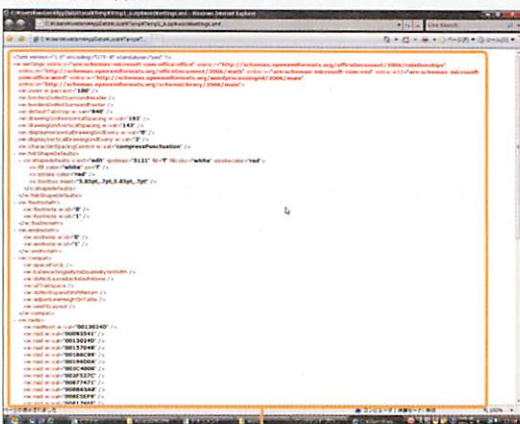
このため、最近ではデータの保存や通信の形式として広く使われています。

XML の大きな利点は、自分で独自のデータ形式を定義でき、しかもそれを他のアプリケーションと共有できることです。データ形式の定義のことをスキーマといいます。スキーマ自体も構造を持ったデータの一種であり、XML 形式で表され、ファイルでやりとりすることができます。スキーマファイルはふつう「.xsd」という拡張子で保存されます。

Access には、XML ファイルのエクスポートとインポートの機能があります。Access のエクスポートやインポートのメニューにはアプリケーションの名前がいくつか並んでいますが、Access が直接サポートしているアプリケーションでなくても、相手方のアプリケーションが XML 形式での出力をサポートしているなら、Access のテーブルにデータを取り込むことができます。

また、XML 形式のデータを相互変換するために、XSL (eXtensible Stylesheet Language) という仕組みがあります。XSL を使うと、XML ファイルの中のタグを置き換えたり、データ構造の一部を抽出して再構成したりといったデータの変換が簡単に行えます。これを使うと、他のアプリケーションのデータを加工して Access に取り込んだり、逆に Access データベースのデータを別のアプリケーションで読み込めるように加工したりすることができます。

▼ XML ファイル



タグ付きテキストになっている

9
Access の
カスタマイズ

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

Chapter 9
質問と回答

Q & A



マクロで××を実現するにはどうしたらいいですか？

複雑な動作は、マクロではなくVBAを使うことをおすすめします。



確かに、条件やマクロの実行、マクログループなどを駆使すれば、複雑な動作をするマクロを組むことはできます。しかし、そのくらい腕のあるユーザーでしたら、VBAの文法を勉強することもあまり苦にはならないと思います。

マクロでは、動作の制御に関するアクションが不足していますので、そうした制限のもとで、求める動作を実現しようとなると、どうしてもトリッキーな造りになってしまいます。VBAは完全なプログラミング言語なので、動作の制御に関しては様々な方法が用意されています。文法さえ覚えれば、複雑な動作を組み込むのはかえって簡単です。



Officeは、セキュリティに関して少し神経質過ぎると思うのですが？

セキュリティの知識がない人を対象にする場合は、神経質な設定でなくてはなりません。



OfficeやWindowsでは、至る所でセキュリティについての確認がなされます。いままでのアプリケーションに慣れた人には、こうした確認が面倒に感じるかもしれません。セキュリティの知識がある人にとっては、こうした確認は無駄だと感じるかもしれません。しかし、セキュリティの知識がない人は、しつこいくらいに確認しないとイケません。

一番危険なのは、少しだけPCの知識を付けた人が、セキュリティについての知識もないままに、セキュリティチェックの外し方だけを知ってしまうことです。本書で説明した、信頼できる場所の設定やマクロの警告設定などのセキュリティチェック外しは、自分が何をやっているのかを理解した上で実行してください。ベテランの人は、どんなファイルは信頼でき、どんなファイルにはウイルスが入っている危険性があるかが理解できているから、セキュリティのチェックを外しても問題ないのです。自分でその見分けができないのなら、多少面倒でも、PCにチェックを任せるようにしてください。



マクロのアクションの中に、注意マークが付いたものがありますが、これは何ですか？

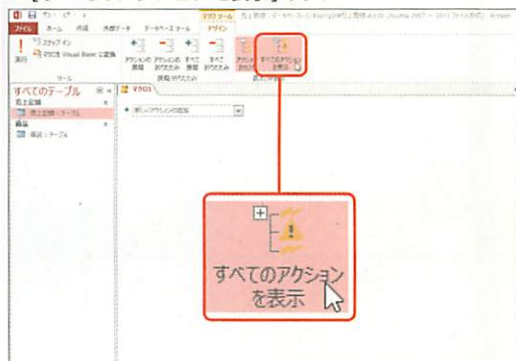
セキュリティを破る可能性のあるアクションです。



マクロのアクションの中には、「他のアプリケーションを起動する」とか、「警告メッセージを出さないようにする」といった、悪用することでシステムに重大な問題を引き起こす可能性のあるアクションもあります。こうしたアクションは、通常は選択できないようになっています。

マクロのデザインタブにあるすべてのアクションを表示ボタンをクリックすると、こうしたアクションも選択できるようになります。こうしたアクションは、悪用すると問題があるというだけなので、自分で使うだけなら特に避ける必要はありません。

▼[すべてのアクションを表示]ボタン



9

Accessの
カスタマイズ

10

フォームや
レポートの設計

11

アプリを
作成する

12

テンプレート
の使用

13

データベース
作成の手順資料
Appendix索引
Index